

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクシユン ムツカクケン 学校法人 睦学園							
フリガナ大学の名称	ヒョウコウダいがく 兵庫大学 (Hyogo University)							
大学本部の位置	兵庫県加古川市平岡町新在家2301							
大学の目的	<p>本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神である「和」を育む仏教主義に基づく大学として、専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、併せて有為の人材を養成することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>教育学部では教員としての使命感や情熱を持ち、発達や学びの連続性を踏まえた就学前教育及び学校教育に関する高度な専門知識と優れた技能・実践力を有し、子どもの個性と環境の多様性に対応しながら、共生社会の一員として地域社会に貢献できる人材を養成する。</p> <p>教育学科では、幅広い教養と、教育・保育に関する専門的な知識と技能を有し、多様な人々と協働しながら、子どもの多様性を理解しつつ、興味・関心を引き出し、子どもの主体的学びや自己成長を導くための教育を展開することができる学校教育や幼児教育、児童福祉の専門職を養成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	教育学部 [Faculty of Education]	年	人	年次人	人	学士 (教育学) 【Bachelor of Education】	年 月 第 年次	兵庫県加古川市 平岡町新在家2301
	教育学科 [Department of Education]	4	100	3年次 5	105	令和5年4月 第1年次 令和7年4月 第3年次		
計		100	3年次 5	410				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>兵庫大学 教育学部教育学科〔定員増〕 (100) (3年次編入学定員) (5) (令和4年3月認可申請)</p> <p>生涯福祉学部 社会福祉学科 (3年次編入学定員)〔定員増〕 (5) (令和4年3月認可申請)</p> <p>生涯福祉学部子ども福祉学科 (△50) (3年次編入学定員) (△5)</p> <p>※令和5年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止)</p> <p>兵庫大学短期大学部 保育科第一部〔定員減〕 (△20) (令和5年4月)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	教育学部教育学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位		
		103 科目	61 科目	12 科目	176 科目			

教 員	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新 設 分	教育学部 教育学科		10人 (10)	8人 (8)	2人 (2)	0人 (0)	20人 (20)	0人 (0)	61人 (61)
	計		10 (10)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	- (-)
組 織 の 概 要	既 設 分	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	11人 (11)	5人 (5)	2人 (2)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	56人 (56)
		健康科学部 栄養マネジメント学科	5 (5)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	15 (15)	2 (2)	55 (55)
		健康システム学科	5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	61 (61)
		看護学部 看護学科	13 (13)	6 (6)	6 (6)	3 (3)	28 (28)	4 (4)	52 (52)
		生涯福祉学部 社会福祉学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	41 (41)
		共通教育機構	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		計	45 (45)	24 (24)	14 (14)	6 (6)	89 (89)	6 (6)	- (-)
合 計		55 (55)	32 (32)	16 (16)	6 (6)	109 (109)	6 (6)	- (-)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		55人 (55)		0人 (0)		55人 (55)		
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	そ の 他 の 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	計		57 (57)		0 (0)		57 (57)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	0 m ²	72,973 m ²		0 m ²		72,973 m ²		
	運 動 場 用 地	0 m ²	9,600 m ²		0 m ²		9,600 m ²		
	小 計	0 m ²	82,573 m ²		0 m ²		82,573 m ²		
	そ の 他	0 m ²	10,706 m ²		0 m ²		10,706 m ²		
	合 計	0 m ²	93,279 m ²		0 m ²		93,279 m ²		
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	132.00 m ² (132.00m ²)	29,154.11 m ² (29,242.01m ²)		1,773.35 m ² (1,773.35m ²)		31,059.46 m ² (31,059.46m ²)			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	29 室	28 室	34 室		4 室 (補助職員 3人)		- 室 (補助職員 一人)		
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数					
	教育学部教育学科			20 室					

兵庫大学短期大学部
と共用

兵庫大学短期大学部
と共用

大学全体
兵庫大学短期大学部
と共用

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	54,864 [6,910] (54,553 [6,910])	1,699 [236] (1,699 [236])	3 [1] (3 [1])	6,005 (6,005)	5,902 (5,902)	58 (58)			
	計	54,864 [6,910] (54,553 [6,910])	1,699 [236] (1,699 [236])	3 [1] (3 [1])	6,005 (6,005)	5,902 (5,902)	58 (58)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		1,829 m ²		270		151,200				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		2,286 m ²		テニスコート4面 -						
経費の 見及び 維持 方法 の概 要	経費 の見 積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体
		教員1人当り研究費等		480千円	480千円	480千円	480千円	-	-	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	-	-	
		図書購入費	1,100千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	-	-	
	設備購入費	0千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,290千円	1,140千円	1,140千円	1,140千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、入学検定料、雑収入等							
既設 大学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	兵庫大学								※令和2年度入学定員減 (△20人) (現代ビジネス 学部現代ビジネス学 科) ※令和4年度入学定員増 (20人) (現代ビジネス 学部現代ビジネス学 科) ※平成29年度より学生募 集停止 (健康科学看護 学)科 ※令和2年度入学定員増 (10人) (生涯福祉学 部社会福祉学)科 ※令和5年度より学生募 集停止 (生涯福祉学)部こ ども福祉学)科
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	4	120	3年次 2	444	学士 (現代ビジ)	1.02 1.02	平成28年度	兵庫県加古川市 平岡町新在家2301	
	健康科学部 栄養マネジメント学科	4	80	3年次 5	330	学士 (栄養学)	0.90 0.84	平成13年度		
	健康システム学科	4	40	-	160	学士 (健康科学)	1.02	平成13年度		
	看護学科	4	-	-	-	学士 (看護学)	-	平成18年度		
	看護学部 看護学科	4	90	-	360	学士 (看護学)	1.12 1.12	平成29年度		
	生涯福祉学部 社会福祉学科	4	40	-	150	学士 (社会福祉学)	0.98 1.05	平成20年度		
	こども福祉学科	4	50	3年次 5	210	学士 (こども福祉)	0.93	平成25年度		

既設大学等の状況	大学の名称	兵庫大学大学院							兵庫県加古川市平岡町新在家2301	※令和2年度より学生募集停止（経済情報研究科経済情報専攻）			
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			所在地		
		年	人	年次人	人		倍						
	(修士・博士前期課程) 経済情報研究科 経済情報専攻	2	20	—	—	修士 (経済情報)	—	平成11年度					
	現代ビジネス研究科 現代ビジネス専攻	2	5	—	10	修士 (現代ビジネス)	1.40 1.40	令和2年度					
	看護学研究科 看護学専攻	2	6	—	12	修士 (看護学)	0.08 0.08	令和2年度					
	(博士後期課程) 看護学研究科 看護学専攻	3	4	—	12	博士 (看護学)	1.25 1.25	令和2年度					
	大学の名称	兵庫大学短期大学部									兵庫県加古川市平岡町新在家2301	※令和5年度入学定員減(△50人) (保育科第一部)	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度					所在地
		年	人	年次人	人		倍						
保育科第一部	2	100	—	200	短期大学士 (保育)	0.60	昭和32年度						
保育科第三部	3	80	—	240	短期大学士 (保育)	0.96	昭和46年度						
附属施設の概要	該当なし												

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人睦学園 認可申請等に関する組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
兵庫大学				兵庫大学				
						3年次		
								学部の新設 (設置届出)
					<u>100</u>	<u>5</u>	<u>410</u>	
						3年次		
現代ビジネス学部				現代ビジネス学部				
現代ビジネス学科	120	2	484	現代ビジネス学科	120	2	484	
						3年次		
健康科学部				健康科学部				
栄養マネジメント学科	80	5	330	栄養マネジメント学科	80	5	330	
健康システム学科	40	—	160	健康システム学科	40	—	160	
						3年次		
看護学部				看護学部				
看護学科	90	—	360	看護学科	90	—	360	
						3年次		
生涯福祉学部				生涯福祉学部				編入学定員 変更(5)
社会福祉学科	40	—	160	社会福祉学科	40	<u>5</u>	<u>170</u>	令和5年4月学生 募集停止
こども福祉学科	50	5	210	こども福祉学科	0	0	0	
計	<u>420</u>	<u>12</u>	<u>1,704</u>	計	<u>470</u>	<u>17</u>	<u>1,914</u>	
兵庫大学大学院				兵庫大学大学院				
現代ビジネス研究科	5	—	10	現代ビジネス研究科	5	—	10	
現代ビジネス専攻(M)				現代ビジネス専攻(M)				
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	6	—	12	看護学専攻(M)	6	—	12	
看護学専攻(D)	4	—	12	看護学専攻(D)	4	—	12	
計	15	—	34	計	15	—	34	
兵庫大学短期大学部				兵庫大学短期大学部				
保育科第一部	<u>100</u>	—	<u>200</u>	保育科第一部	<u>80</u>	—	<u>160</u>	定員変更(△20)
保育科第三部	80	—	240	保育科第三部	80	—	240	
計	<u>180</u>	—	<u>440</u>	計	<u>160</u>	—	<u>400</u>	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
生涯福祉学部 こども福祉学科 (廃止)	学士 (こども福祉)	社会学・社会学関係、 福祉学関係、 教育学・保育学関係	教育学部教育学科	5	3	教育学部 教育学科	学士 (教育学)	教育学・保育学関係	生涯福祉学部 こども福祉学科	5	3
			現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	2	1				健康科学部 健康システム学科	2	1
			その他	1	0				兵庫大学短期大学部	4	1
									新規採用	9	5
			計	8	4				計	20	10
健康科学部 健康システム 学科	学士 (健康科学)	体育関係、文学関係、保健衛生学関係 (看護学関係を除く)	健康科学部 健康システム学科	5	2	健康科学部 健康システム 学科	学士 (健康科学)	体育関係、文学関係、保健衛生学関係 (看護学関係を除く)	健康科学部 健康システム学科	5	2
			教育学部教育学科	2	1				新規採用	4	3
			退職	4	3						
			計	11	6				計	9	5

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成25年4月	生涯福祉学部こども福祉学科 設置	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	設置届出(学科)
平成26年4月	生涯福祉学部こども福祉学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	学則変更
平成27年4月	生涯福祉学部こども福祉学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	学則変更
平成28年4月	生涯福祉学部こども福祉学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	学則変更
平成29年4月	生涯福祉学部こども福祉学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	学則変更
平成30年4月	生涯福祉学部こども福祉学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	学則変更
平成31年4月	生涯福祉学部こども福祉学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	学則変更
令和2年4月	生涯福祉学部こども福祉学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	学則変更
令和3年4月	生涯福祉学部こども福祉学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学、 教育学・保育学	学則変更
令和5年4月	教育学部教育学科 設置	教育学・保育学	認可又は届出(学部)
令和5年4月	生涯福祉学部こども福祉学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)

教育課程等の概要														
(教育学部教育学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
建学の精神	宗教と人生	1・後	2			○								兼1
	仏教と現代社会	1・後	2			○								兼1
	兵庫大学の学びと和	1・後	2			○								兼2
	地域と仏教	1・前	1			○								兼2
	兵大京都学	1・後	1			○								兼2
	小計(5科目)	—	2	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4
コミュニケーション	日本語(読解と表現)	1・前	2				○							兼1
	英語	1・後	2				○							兼2
	実用英語Ⅰ	1・後	2				○							兼1
	実用英語Ⅱ	2・前	2				○							兼1
	中国語(初級)	1・前	2				○							兼1
	中国語(中級)	1・後	2				○							兼1
	韓国語(初級)	1・前	2				○							兼1
	韓国語(中級)	1・後	2				○							兼1
	コンピュータ演習	1・前	2				○							兼1
	コンピュータグラフィックスの基礎	1・後	2			○								兼2
	小計(10科目)	—	6	14	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9
国際理解	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)	1・前	2			○								兼1
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)	1・後	2			○								兼1
	国際関係論	1・後	2			○								兼1
	比較文化論	1・後	2			○								兼1
	小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4
歴史と文化	歴史学	1・前	2			○								兼1
	文学	1・後	2			○								兼1
	色彩とデザイン	1・前	2			○								兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼3
地域に学ぶ	地域文化論	1・後	2			○								兼1
	建築デザインと地域	1・後	2			○								兼1
	地域と文化財	1・前	2			○								兼1
	地域資料を読む	1・後	2			○								兼1
	日本の伝統文化「将棋」を学ぶ	1・前	2			○								兼1
	ファッション入門	1・前	2			○								兼3
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼5
現代社会を読み解く	哲学	1・前	2			○								兼1
	日本国憲法	1・前	2			○								兼1
	人権の歴史	1・前	2			○								兼1
	政治学	1・前	2			○								兼1
	社会学	1・前	2			○								兼1
	経済学	1・前	2			○								兼1
	現代社会の理解	1・前	2			○								兼1
	小計(7科目)	—	2	12	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7
自然と科学	生命倫理学	1・前	2			○								兼1
	心理学	1・前	2			○								兼1
	化学	1・前	2			○								兼1
	生物学	1・前	2			○								兼1
	身のまわりの科学	1・前	2			○								兼2
	プログラミング入門	1・後	2			○								兼1
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼6
くらしと健康	食と健康	1・後	2			○								兼1
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	1・後	2			○								兼1
	健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)	1・前	1					○						兼2
	健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)	1・後	1					○						兼1
	小計(4科目)	—	2	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4
キャリアインデ	私のためのキャリア設計	1・前	2			○								兼1
	ヒューマンサービスとマネジメント	3・後	2			○								兼3
	入門ボランティア	1・通年	2					○						兼3
	小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼6
	小計(48科目)	—	12	80	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼33

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	ゼミナール科目	クラスゼミナールⅠ	1・前	2				○		3	1	1				共同	
		クラスゼミナールⅡ	1・後	2				○		2	3					共同	
		クラスゼミナールⅢ	2・前	2					○	2	2	1				共同	
		クラスゼミナールⅣ	2・後	2					○	2	2					共同	
		卒業研究Ⅰ	3・前	2					○	9	8	2					
		卒業研究Ⅱ	3・後	2					○	9	8	2					
		卒業研究Ⅲ	4・前	2					○	9	8	2					
		卒業研究Ⅳ	4・後	2					○	9	8	2					
		小計(8科目)	—	—	16	0	0	—	—	—	9	8	2	0	0	兼0	
	幼児教育・保育内容科目	こどもと健康	1・前		1				○							兼1	
		こどもと人間関係	1・前		1				○		1					兼1	
		こどもと環境	1・後		1				○							兼1	
		こどもと言葉	1・前		1				○							兼1	オムニバス 共同(一部)
		こどもと表現	1・後		1				○	1	1					兼1	
		こどもとサイエンス (こどもと科学遊び)	2・後		1				○		1					兼1	
		保育内容総論	2・後		1				○							兼1	
		保育内容「健康」の指導法	2・後		2				○							兼1	
		保育内容「人間関係」の指導法	2・後		2				○							兼2	
		保育内容「環境」の指導法	2・前		2				○							兼1	
		保育内容「言葉」の指導法	2・後		2				○		1					兼1	
		保育内容「表現」の指導法	2・前		2				○		1	1				兼1	オムニバス 共同(一部)
	小計(12科目)	—	—	0	17	0	—	—	—	1	4	0	0	0	兼5		
	教育・保育実践科目	幼児教育・保育実践科目	音楽Ⅰ	1・前		1				○		2					共同
			音楽Ⅱ	1・後		1				○		2					共同
総合表現教育Ⅰ			1・後		1				○	1	1					兼1	共同
総合表現教育Ⅱ			2・前		1				○	1	1					兼1	共同
教師・保育者論			3・前		2			○		1	1					兼1	共同
教育・保育の課程と評価			2・前		2			○		1	1					兼1	
幼児理解			2・後		1				○	1						兼1	
保育原理			1・前		2				○		1					兼1	
こども家庭福祉			2・前		2				○	1						兼1	オムニバス
社会福祉			1・前		2				○	2						兼1	
こども家庭支援論			2・前		2				○							兼1	
こども家庭支援の心理学			3・後		2				○							兼1	
こどもの保健		1・後		2				○							兼1		
こどもの食と栄養Ⅰ		2・前		1				○							兼1		
こどもの食と栄養Ⅱ		2・後		1				○							兼1		
乳児保育Ⅰ		1・前		2				○							兼1		
乳児保育Ⅱ		1・後		1				○							兼1		
こどもの健康と安全		2・後		1				○							兼1		
特別支援教育Ⅰ		2・前		1				○		1					兼1		
特別支援教育Ⅱ		2・後		1				○		1					兼1		
社会的養護Ⅰ		2・前		2				○							兼1		
社会的養護Ⅱ		3・前		1				○							兼1		
子育て支援		2・後		1				○							兼1		
青年心理学		3・後		2				○		1					兼1		
小計(24科目)	—	—	0	35	0	—	—	—	4	5	0	0	0	兼9			
初等教科内容科目	初等国語科内容論	1・前		1				○	1								
	初等社会科内容論	1・前		1				○	1								
	初等算数科内容論	1・後		1				○	1							※実験・実習	
	初等理科内容論	1・前		1				○	1	1						※実験・実習	
	初等生活科内容論	1・後		1				○	1							※演習	
	初等音楽科内容論	1・前		1				○	1	1						※演習	
	初等図画工作科内容論	1・後		1				○	1							兼1	
	初等家庭科内容論	1・前		1				○								兼1	
	初等体育科内容論	1・後		1				○								兼1	
	初等英語科内容論	1・後		1				○								兼1	
小計(10科目)	—	—	0	10	0	—	—	—	4	2	0	0	0	兼3			
初等教科指導法科目	初等国語科教育法	2・後		2				○	1								
	初等社会科教育法	2・後		2				○	1								
	初等算数科教育法	2・前		2				○	1								
	初等理科教育法	2・後		2				○	1	1							
	初等生活科教育法	2・前		2				○	1							※演習	
	初等音楽科教育法	2・後		2				○	1	1						※演習	
	初等図画工作科教育法	2・前		2				○	1							兼1	
	初等家庭科教育法	2・後		2				○								兼1	
	初等体育科教育法	2・前		2				○								兼1	
	初等英語科教育法	2・前		2				○								兼1	
小計(10科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	4	2	0	0	0	兼3			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職 発展科目	こども支援 発展科目	個別教育計画概論	2・前	2			○		1							
		個別教育計画作成演習	3・後	1				○	1							
		小計(2科目)	—	1	2	0		—	1	0	0	0	0	兼0		
	学校・地域 教育活動 発展科目	ふれあい体験活動	1・後	1					○	1						共同 共同
		インターンシップⅠ	2・通年	1					○	4	2					
		インターンシップⅡ	3・通年	1					○	3	1	1				
		防災とコミュニティ	3・前	2			○							兼1		
		子育て支援地域活動Ⅰ	2・前後	1				○		1						
		子育て支援地域活動Ⅱ	3・前後	1				○		1						
	小計(6科目)	—	2	5	0		—	7	4	1	0	0	兼1			
	ICT 活用科目	学校教育におけるICT活用	1・後	2				○							兼1	
		情報社会と情報モラル教育	1・後	2			○			1					兼1	オムニバス・ 共同(一部)
		情報活用の実践Ⅰ	2・前	2				○		3	2				兼2	オムニバス・ 共同(一部)
		情報活用の実践Ⅱ (デジタル教科書の活用を含む)	2・後	2				○		1	2				兼1	共同
		教育データの利活用	3・前	2			○			1					兼1	共同
	小計(5科目)	—	2	8	0		—	4	3	0	0	0	兼3			
	特別 支援 保育 発展科目	発達障害児への支援	3・後	2				○				1				兼1
		社会的スキルトレーニングの理論と実践	4・前	2				○								兼1
		スクールソーシャルワーク論	3・前	2			○									兼1
		こども音楽療育論	3・後	2			○				1					
小計(4科目)	—	0	8	0		—	0	1	1	0	0	兼2				
専門 教育科目	教職 基礎 科目	教育の思想と原理	1・前	2			○								兼2	オムニバス
		教育史	3・後	2			○								兼1	
		教育哲学	2・前	2			○								兼2	オムニバス
		教職入門	1・前	2			○			1						
		教育制度論	1・後	2			○			1						
		教育社会学	2・後	2			○								兼1	
		教育心理学	3・前	2			○			1						
		発達心理学	1・後	2			○			1						
		教育課程論	1・後	2			○			1						
		学校組織マネジメント	3・後	2			○									兼1
小計(10科目)	—	10	10	0		—	3	0	0	0	0	兼5				
教職・ 保育 キャリア 科目	教職 支援 科目	道徳教育論	2・前	2			○		1							
		総合的な学習の理論と実践	2・後	2			○		1	1						オムニバス 共同(一部)
		特別活動論	3・前	2			○		2							オムニバス 共同(一部)
		教育方法・技術論	1・後	2			○			1						
		教育におけるICT活用の理論と方法	2・前	2			○			1						
		生徒指導論	2・後	2			○								兼1	
		教育相談	2・後	2			○					1				
		小計(7科目)	—	0	14	0		—	2	2	1	0	0	兼1		
教職 実践 科目	教職実践演習(小学校)	4・後	2				○		1							
	保育・教職実践演習	4・後	2				○			1						
	幼稚園教育実習	4・通年	4					○		1						
	小学校教育実習	3・後	4					○		1						
	特別支援教育実習	4・通年	2					○	1	1	2					
	幼稚園教育実習リフレクション	4・通年	1				○		1							
	小学校教育実習リフレクション	3・通年	1				○		1							
	特別支援教育実習リフレクション	4・通年	1				○		1	1	2					
	小計(8科目)	—	0	17	0		—	2	3	2	0	0	兼0			
保育 実習	保育実習指導Ⅰ(保育所)	2・前	1				○			1						
	保育実習Ⅰ(保育所)	2・前	2							1						
	保育実習指導Ⅰ(施設)	2・後	1				○		1	1					共同	
	保育実習Ⅰ(施設)	2・後	2						1	1					共同	
	保育実習指導Ⅱ	3・前	1				○			1						
	保育実習Ⅱ	3・前	2							1						
	保育実習指導Ⅲ	3・前	1				○		1	1					共同	
	保育実習Ⅲ	3・前	2						1	1					共同	
小計(8科目)	—	0	12	0		—	1	2	0	0	0	兼0				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	特別支援教育総論	1・後		2		○			1	1	2				オムニバス
	知的障害児の心理・生理・病理	2・前		2		○					1			兼1	オムニバス
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2・前		2		○					1			兼1	オムニバス
	病弱児の心理・生理・病理	2・後		2		○					1			兼1	オムニバス
	知的障害児の教育課程と指導法	3・前		2		○					1				
	肢体不自由児の教育課程と指導法	3・後		2		○			1		1				オムニバス
	病弱児の教育課程と指導法	3・後		2		○						1			兼1
	知的障害教育総論	2・後		2		○						1			
	肢体不自由教育総論	2・後		2		○			1						
	病弱教育総論	3・後		2		○									兼1
	視覚障害教育総論	4・前		2		○									兼1
	聴覚障害教育総論	4・前		2		○					1				
	重複・発達障害教育総論	3・前		2		○			1	1	2				オムニバス
	心理検査法	3・前		2			○			1	1	1			共同
小計(14科目)		—	0	28	0	—		1	1	2	0	0	0	兼4	
小計(128科目)			31	186	0			10	8	2	0	0	0	兼32	
合計(176科目)		—	43	266	0	—		10	8	2	0	0	0	兼62	
学位又は称号	学士(教育学)	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係												
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
① 卒業要件単位数は124単位である。 その履修方法は、『共通教育科目』から20単位以上、『専門教育科目』から92単位以上(「ゼミナール科目」から16単位、「教育・保育実践科目」から20単位以上、「教職発展科目」から5単位以上、「教職・保育キャリア科目」から20単位以上を含む)及び『共通教育科目』『専門教育科目』のいずれかから12単位以上の計124単位以上を修得しなければならない。 ② 履修科目の登録の上限は各学期24単位、年間48単位である。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要																
(生涯福祉学部こども福祉学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	建学の精神	宗教と人生 1・後	2			○									兼1	
		仏教と現代社会 1・後		2		○									兼1	
		兵庫大学の学びと和 1・後		2		○									兼2	
		地域と仏教 1・前		1		○									兼2	
		兵大京都学 1・後		1		○									兼2	
		小計(5科目)	—	2	6	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	
	コミュニケーション	日本語(読解と表現)	1・前	2				○								兼1
		英語	1・後	2				○								兼2
		実用英語Ⅰ	1・後		2			○								兼1
		実用英語Ⅱ	2・前		2			○								兼1
		中国語(初級)	1・前		2			○								兼1
		中国語(中級)	1・後		2			○								兼1
		韓国語(初級)	1・前		2			○								兼1
		韓国語(中級)	1・後		2			○								兼1
		コンピュータ演習	1・前		2			○								兼1
		コンピュータグラフィックスの基礎	1・後		2		○									兼2
		小計(10科目)	—	6	14	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9	
	国際理解	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)	1・前		2		○									兼1
		国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)	1・後		2		○				1					兼1
		国際関係論	1・後		2		○									兼1
		比較文化論	1・後		2		○									兼1
		小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	0	1	0	0	0	0	兼3	
	歴史と文化	歴史学	1・前		2		○									兼1
		文学	1・後		2		○									兼1
		色彩とデザイン	1・前		2		○									兼1
		小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3	
	地域に学ぶ	地域文化論	1・後		2		○									兼1
		建築デザインと地域	1・後		2		○									兼1
地域と文化財		1・前		2		○									兼1	
地域資料を読む		1・後		2		○									兼1	
日本の伝統文化「将棋」を学ぶ		1・後		2		○									兼2	
ファッション入門		1・前		2		○				1					兼2	
小計(6科目)		—	0	12	0	—	—	0	1	0	0	0	0	兼4		
現代社会を読み解く	哲学	1・前		2		○									兼1	
	日本国憲法	1・前		2		○									兼1	
	人権の歴史	1・前		2		○									兼1	
	政治学	1・前		2		○				1					兼1	
	社会学	1・前		2		○									兼1	
	経済学	1・前		2		○									兼1	
	現代社会の理解	1・前		2		○									兼1	
	小計(7科目)	—	0	14	0	—	—	0	1	0	0	0	0	兼6		
自然と科学	生命倫理学	1・後		2		○									兼1	
	心理学	1・前		2		○									兼1	
	化学	1・前		2		○									兼1	
	生物学	1・前		2		○									兼1	
	身のまわりの科学	1・前		2		○									兼2	
	プログラミング入門	1・後		2		○									兼1	
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼6		
くらしと健康	食と健康	1・後		2		○									兼1	
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	1・後		2		○									兼2	
	健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)	1・前		1							○				兼2	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)	1・後		1							○				兼1	
	小計(4科目)	—	0	6	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	私のためのキャリア設計	1・前		2		○									兼1
	ヒューマンサービスとマネジメント	3・後		2		○									兼3
	入門ボランティア	1・通年		2		○									兼3
	小計 (3科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6
	小計 (48科目)	—	8	90	0	—			0	0	0	0	0	0	兼33
専門教育科目	幼児教育・保育の基礎	初年次演習Ⅰ	1・前	2			○		4	4					
		初年次演習Ⅱ	1・後	2			○		4	4					
		基礎演習Ⅰ	2・前	2			○		4	4					
		基礎演習Ⅱ	2・後	2			○		4	4					
		専門演習Ⅰ	3・前	2			○		4	4					
		専門演習Ⅱ	3・後	2			○		4	4					
		卒業演習Ⅰ	4・前	2			○		4	4					
		卒業演習Ⅱ	4・後	2			○		4	4					
		教育学研究	3・後	2			○		4	4					
		小計 (9科目)	—	16	2	0	—			4	4		0	0	
専門教育科目	幼児教育・保育の基本	教育原理	1・後	2			○								兼1
		教育史	3・前	2			○								兼1
		教育哲学	2・前	2			○								兼1
		保育原理	1・前	2			○			1					
		こどもの保健	1・後	2			○								兼1
		こどもの健康と安全	2・後	1				○							兼1
		こどもの食と栄養Ⅰ	2・前	1				○							兼1
		こどもの食と栄養Ⅱ	2・後	1				○							兼1
		こどもと健康	1・前	2				○							兼1
		こどもと人間関係	1・前	2				○							兼1
		こどもと環境	1・後	2				○							兼1
		こどもと言葉	1・前	2				○		1					
		こどもと表現	1・後	2				○			2				
		保育内容「健康」の指導法	2・後	1				○							兼1
		保育内容「人間関係」の指導法	2・後	1				○							兼1
		保育内容「環境」の指導法	2・前	1				○							兼1
		保育内容「言葉」の指導法	2・後	1				○		1					
		保育内容「表現」の指導法 (音楽)	2・前	1				○			1				
		保育内容「表現」の指導法 (造形)	2・前	1				○			1				
		保育内容「表現」の指導法 (身体)	2・前	1				○							兼1
		こどもと音楽Ⅰ	1・前	2				○			1				
		こどもと音楽Ⅱ	2・前	2				○			1				
		こどもと音楽Ⅲ	3・前	2				○			1				
		こどもと音楽Ⅳ	4・前	2				○			1				
		こどもと音楽演習Ⅰ	1・後	2				○			1				
		こどもと音楽演習Ⅱ	2・後	2				○			1				
		こどもと音楽演習Ⅲ	3・後	2				○			1				
		こどもと造形Ⅰ	1・前	2				○			1				
		こどもと造形Ⅱ	2・前	2				○			1				
		こどもと造形Ⅲ	3・前	2				○			1				
		こどもと造形Ⅳ	4・前	2				○			1				
		こどもと運動Ⅰ	2・前	2				○							兼1
こどもと運動Ⅱ	2・後	2				○							兼1		
乳児保育Ⅰ	1・前	2				○							兼1		
乳児保育Ⅱ	1・後	1				○							兼1		
教師・保育者論	3・前	2				○		1							
教育・保育の課程と評価	2・前	2				○			1						
保育内容総論	2・後	2				○		1							
保育・教職実践演習 (幼稚園)	4・後	2				○		1							
教育心理学	2・前	2				○		1							
教育制度論	2・前	2				○							兼1		
教育方法論	3・前	2				○			1						
教育社会学	3・前	2				○									
小学校教育の理解と連携	3・後	2				○									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	幼児教育・保育の基本	教育相談	3・後	2		○									兼1
		こども家庭支援論	2・前	2		○									兼1
		子育て支援	2・後	1			○								兼1
		音楽教育	1・前	2			○								
		こどもと数	3・前	2		○			1	1					
		こどもと生活	2・後	2		○									兼1
	小計 (50科目)	—	14	74	0	—	—	3	3	0	0	0	0	兼14	
専門教育科目	こどもの理解・社会の理解	教育と福祉	3・後	2		○									
		社会福祉	1・前	2		○									兼1
		こども家庭福祉	2・前	2		○				1					
		社会保障論	3・前	2		○									兼1
		社会教育学	3・前	2		○									
		幼児理解	2・後	2			○			1					
		こどもの心理学 I	1・前	2		○				1					
		こどもの心理学 II	1・後	1		○				1					
		こども家庭支援の心理学	3・後	2		○									兼1
		青年心理学	3・後	2		○				1					
		臨床心理学	3・前	2		○									兼1
		社会的養護 I	2・前	2		○									兼1
		社会的養護 II	3・前	1			○								兼1
		施設保育士論	3・後	2		○									兼1
		幼児のための福祉教育 I	3・前	2		○									兼1
		幼児のための福祉教育 II	3・後	2			○								兼1
		幼児のための消費者教育	2・後	2			○								兼1
		こども文化論	2・前	2			○								兼1
		こどもとICT	3・後	2			○								兼1
		子育て支援地域活動	2・前	2				○		1	1				
		子育て支援地域活動の展開	3・前	2				○		1					
保育事業のマネジメント	3・前	2				○							兼1		
児童館の機能と運営	3・前	2			○			1					兼1		
児童館・放課後児童クラブの活動内容 と指導法 I	3・前	2			○								兼1		
児童館・放課後児童クラブの活動内容 と指導法 II	3・後	2			○								兼2		
小計 (25科目)	—	10	38	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	兼14	
専門教育科目	特別支援	障害児保育 I	2・前	1				○							兼1
		障害児保育 II	2・後	1				○							兼1
		特別支援教育の理解	3・前	2			○								兼1
		発達と疾病・障害	3・後	2			○								兼1
		発達障害児への支援	3・後	2				○							兼1
		こころとからだのしくみ I	3・前	2			○								兼1
		こころとからだのしくみ II	3・後	2			○								兼1
		読み書き支援	3・前	1				○							兼1
		心理検査法	3・前	2			○								兼1
		こども音楽療育概論	3・後	2			○				1				
		こども音楽療育演習	4・前	1				○							
小計 (11科目)	—	0	18	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	保育実習指導ⅠA	2・後		1			○	○		1					兼1
	保育実習ⅠA	2・後		2				○		1					
	保育実習指導ⅠB	3・前		1			○	○	1						
	保育実習ⅠB	3・前		2				○		1					
	保育実習指導Ⅱ	3・後		1			○	○		1					
	保育実習Ⅱ	3・後		2				○		1					
	保育実習指導Ⅲ	3・後		1			○	○	1						
	保育実習Ⅲ	3・後		2				○		1					
	教育実習指導	4・前		1			○	○	1						
	教育実習	4・通		4				○		4					
	児童福祉実習指導	3・後		1			○	○	1						
	児童福祉実習	3・後		2				○		1					
	こども音楽療育実習	4・後						○			1				
小計(13科目)		—	0	21	0		—		1	2	0	0	0	0	兼1
小計(108科目)		—	40	153	0		—		4	4	0	0	0	0	兼33
合計(156科目)		—	48	243	0		—		4	4	0	0	0	0	兼65
学位又は称号	学士(こども福祉)	学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法					授業期間等										
① 卒業要件単位数は124単位である。 その履修方法は『共通教育科目』から10単位以上、『専門教育科目』のうち「幼児教育・保育の基盤」から16単位以上、「幼児教育・保育の基本」から38単位以上、「こどもの理解・社会の理解」から26単位以上、「特別支援」から6単位以上、の計86単位以上、及び『共通教育科目』『専門教育科目』のいずれかから28単位以上の計124単位以上を修得しなければならない。 ② 履修科目の登録の上限は各学期30単位、年間50単位である。					1学年の学期区分			2期							
					1学期の授業期間			15週							
					1時限の授業時間			90分							

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	建学の精神	宗教と人生	本学の「建学の精神」と、「建学の精神」にも示された「仏教」の理解を深めることを目的とする。更に様々な宗教に多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進めていく。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく宗教心や宗教性も含むものである。仏教を中心にいくつかの宗教の体系を知ることによって、「価値」や「意味」といった計量化できない問題に取り組む力を養う。
		仏教と現代社会	「建学の精神」に記された仏教について学び深めることを目的とする。身の周りを観察してみると、仏教が生活や思想にいろいろな形でかかわっていることに気づかされる。また、仏教学は民族学・民俗学、社会学、心理学といった多分野と関連している。仏教の広がりや仏教文化、仏教の死生観、仏教と医療・グローバル社会・民族や人種関係についても学ぶ。仏教が現代に生きる教えであることを知り、仏教思想と人や社会とのつながりの理解を目指す。
		兵庫大学の学びと和	建学の精神には和と聖徳太子や創始者の先生方が貴ばれた仏教を大切にすることが記されている。本講義は、本学の基盤である建学の精神を学び理解することを目的とする。各学科の教員の講義を通して、専門教育と建学の精神のつながりについて理解を進める。
		地域と仏教	本講義では、講義の他に加古川エリアでのバーチャルフィールドワーク（フィールドワークの代替となる動画視聴）を行う。建学の精神の柱である十七条憲法の「和の精神」を学ぶと共に、十七条憲法をつくった聖徳太子に対し、地域の人々がどのような思いを持ち、崇敬したかを確認していく。加古川エリアは聖徳太子と特に縁の深い地区であるため、聖徳太子と関連する五ヶ井などの史跡や寺院を事前学習した後に動画視聴をする。
		兵大京都学	この授業では、講義を行うだけではなく京都の関係施設でのフィールドワークも行う。十七条憲法の「和」に関して講義で学ぶだけではなく、実際に京都の龍谷山本願寺をはじめとした仏教施設に身を置くことによって、頭だけではなく身体性を通して兵庫大学の建学の精神の理解を深める。なお、フィールドワークとして「宗教ツアー」への参加が必須（10月後半の日曜日に実施予定、昼食費等自己負担）であるため、不参加の場合は単位認定されないことがある。
	コミュニケーション	日本語（読解と表現）	大学での学習・就職活動および、日常生活・社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・文章表現法・敬語の用法といった日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。原則として、単元の説明・解説を受けたあと、課題に取り組むというスタイルで授業を進める。
		英語	本講義では実用的な英語コミュニケーション能力の向上を目的とし、4つのスキルであるスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの上達を目指す。「英語で発信する」ことの大切さを理解し、ペア・グループ活動などにより、英語で「聞き、話し、読み、書く」ことを通じて、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。
		実用英語Ⅰ	本講義では実用的な英語コミュニケーション能力の向上を目的とし、4つのスキルであるスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの上達を目指す。身近なシチュエーションを題材として、自分の言葉で説明すること、他者の状況を踏まえて聞き、話すことを学ぶ。また語学を学ぶコミュニケーションを取る際に必要となる多文化理解についても学ぶ。
		実用英語Ⅱ	テキストの各ユニットの学習を通して、TOEICテストの新問題形式に慣れるとともに、必要な情報を的確に捉える力を身につける。リスニングパートではディクテーションや発話活動を取り入れながら応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。文法パートでは基本的な文法事項を再確認する。TOEICに必要な語いを強化するため、定期的に単語テストを実施する予定である。

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	コミュニケーション	中国語（初級）	この講義は中国語を始めて学ぶ学生のためのものである。内容は発音編（4課）、本文編（12課）、付録（日本の都道府県・食べ物、飲み物・各課宿題・簡体字シート・検定模擬試験）の三部分からなっている。中国語検定試験4級によく出る、最も基本的な単語や文法項目を勉強し、その文法を理解し、挨拶、自己紹介などの簡単な会話を練習する。発音しやすいように各課の会話文を6行に収めるなど、多様な練習問題も用意している。
		中国語（中級）	この講義は初級中国語で学んだ内容を復習しながら、会話、作文を幅広く学習し、コミュニケーション力を身につける。中国語検定試験4級によく出る、基本的な単語や文法項目を勉強する。その文法を理解し、学校の勉強、生活に関する会話を練習する。発音しやすいように各課の会話文を6行に収めるなど、多様な練習問題も用意している。必要に応じて中国語検定試験についての対策を行う。
		韓国語（初級）	韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。
		韓国語（中級）	初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。
		コンピュータ演習	大学における学び及び社会で活動するために必要とされる、基本的な情報処理に関する知識や技術について学ぶ。具体的には、情報検索やソフトウェアなどを用いてウェブ上の情報を活用する力、文書作成、プレゼンテーション等を行うための技能や考え方を修得。また、情報に関するモラルやマナー等について理解する。
		コンピュータグラフィックスの基礎	グラフィックデザインは従来、専門職（デザイナー）が行う分野であったが、近年のデザイン用ソフトウェアの普及に伴い、社会人に求められる能力のひとつになりつつある。本授業では、初心者を対象にグラフィックソフトウェア（Adobe社）の操作について学ぶとともに、それらを用いた作品制作を行い、デザイン基礎力を身につける。
	国際理解	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	キリスト教は世界宗教として国際社会のさまざまな問題と深くかかわっている。この講義ではキリスト教の基礎を学ぶとともに、現代の国際社会におけるいくつかの問題を取り上げ、それら問題とキリスト教とのかかわりについて考えてゆくこととしたい。そこでは国際社会の諸問題をキリスト教という宗教より見てゆくとき、またあらたな視野がひろがってゆくことに気づかされるであろう。
		国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	世界におけるムスリム（イスラーム教徒）数は約18億人、総人口の1/4以上を占め、今後も増加する傾向にある。コロナ禍により来日するムスリムは減ったが、オンラインであれ、今後彼らと接する機会は確実に増える。しかしながら、イスラームに関する偏ったイメージが存在するのも事実である。そこでこの授業では、イスラームの本来の姿やその多様性について学び、イスラーム世界やムスリムに対する理解を深めたい。その一助として、ほぼ毎回、視聴覚教材を利用する。
		国際関係論	この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。
		比較文化論	わたしたちはさまざまな背景を持った人や多様な文化・社会とつながり生きている。本講義の目的は文化の多様性を学び、他者理解や異文化理解を進めること。日本文化、アジア・ヨーロッパ・南北アメリカの文化について海外経験豊かな教員をゲストスピーカーとして招聘し講義を行う。特に本学と連携している国々を知る良い機会となり、グローバル化する社会の中で相互理解の一助となることだろう。

授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
歴史と文化	歴史学	主に日本の前近代を扱います。歴史事実ではなく、「歴史の見方」「歴史的思考方法」の獲得を目指します。アナル歴史学—社会史、等身大の視点からの歴史学—の方法論を主に用います。前近代の市井の人々の感覚世界を探究します。「前近代の自由」が通底するテーマとなります。時代によって変化しない普遍的人間の感覚、および、時代・地域により変化する感覚・諸価値を考察します。自己・他者理解を通じ、感謝・寛容・互譲の感覚の礎を獲得します。	
	文学	文学作品は書き手がことばによって構築する芸術だが、ことば自体が流動的なものであることから、その作品は必然的にさまざまに読み手の目に映じるものとなる。また、読み手が置かれた状況によっても作品は姿を変える。その変容ゆえに作品が読み手にもたらすものを見だし、文学と人との関係を考察する。	
	色彩とデザイン	情報化が進んだ現代社会においては、すべての分野においてデザインに対する理解の重要性が増している。本講義においては、色彩を中心にデザイン分野の基礎知識を身につけるとともに、各分野におけるデザイン思考について理解することを目的とする。	
共通教育科目 地域に学ぶ	地域文化論	播磨地域、特に東播地域の文化特質を考察し、理解する。アジア的視座、日本的視座、西国内部の視座、兵庫県内部の視座からこれを比較検討し、理解する。地理、歴史、文化、民俗、経済、などから問題にアプローチし、多様な方法論・思考方法を感得する。自文化・他文化理解を通じ、建学の精神の感謝・寛容・互譲の礎を獲得する。	
	建築デザインと地域	本講義では県内の文化的に重要な建築を取りあげ、(1)一般教養としての建築学について学ぶとともに、(2)建築・都市を通して兵庫県(特に南部)の地域特性を理解することを目的とする。	
	地域と文化財	加古川エリアは文化財の宝庫です。身近な文化材の活用方法を模索します。また、地域の文化材行政・文化材活用の諸問題を考えます。文化材への理解を通じ、地域への感謝・寛容・互譲という建学の精神の礎を学びます。具体的文化財の資料を用いて個人指導するために、人数制限を設けます。	
	地域資料を読む	崩し字の解読を目指す講義ではありません。絵図・地図を中心に、「昔の地域の姿」を探索する方法論を学ぶ。現物の古文書の解る部分から不明な部分を類推し、仮説を立て、検証する学問的に普遍的な方法論も学ぶ。地域資料(史料)保存方法・保存活動の方法も模索する。崩し字を学びたい者には、そのサポートも行う。昔の地域の姿の理解を通じ、地域への感謝・寛容・互譲という建学の精神の礎を学ぶ。	
	日本の伝統文化「将棋」を学ぶ	日本の伝統文化としての将棋の基礎的なルールをはじめ、将棋の文化的側面、論理的思考の組み立て方、コミュニケーションツールとしての役割、礼儀作法を講義で学ぶ。将棋は二人零和有限確定完全情報ゲームであり、すべてが開示されている盤面の情報を基に、偶然(運)に左右されず自ら考えて決断し指す。将棋を指すことから論理的に考え、工夫する、考え抜く力を養うことを目的とする。	
	ファシリテーション入門	地域課題の解決や地域活性化のためには、当事者の地域住民が真摯に熟慮し、議論をすることが必要。熟議民主主義の本旨を政治学の立場から理解し、リーダーシップや傾聴でファシリテーションを学び、実践を通して身につけることを目的とする。ファシリテーションの力は、会議やチーム活動に有用な技術であるため、「熟議」に参加、授業の中で学んだことを踏まえ実践する。	

授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
現代 社会 を 読 み 解 く	哲学	哲学の主要テーマである「真理」と「知識」の問題を取り上げ、これらの問題について論じる際の2つの異なる立場、すなわち、自然主義と反自然主義のそれぞれが、特に、知識と言語、言語と行為、意志と行為、心身問題といったテーマにおいてどのように特徴的な論争を戦わせているか理解できるようにする。それによって、哲学的思考の特徴について学ぶようにする。	
	日本国憲法	日本国憲法の基本項目（人権の内容、統治機構など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意する。憲法改正論議が進められている今日、「憲法の保障と改正」についても、検討を深めたいと考える。	
	人権の歴史	人権は歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれる現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。人権というテーマを通して様々な生き方や価値観によって形成される社会のあり方や、人間の尊厳を通して自己と他者のあり方を考えることができることをめざす。	
	政治学	この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。	
	社会学	本講義は、社会学をはじめて学ぶ人が、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について具体的に説明できるようになることを目標とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば「自分から見える社会は一つの見え方にすぎない」ことを理解することが重要である。社会学の専門用語を用いて、現代社会における個人と社会の関係、社会や国家のしくみについて理論的に説明できることをめざす。	
	経済学	「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスにかかわらなければ、あまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説し、経済社会の諸問題について考察する。	
	現代社会の理解	公職選挙法(第9条)が2015年に改定され、年齢満18歳以上の者が選挙権を有することになりました。さらに民法(第4条)が改定され、成年となる年齢を18歳に引き下げた事が決まりました。受講生諸君と現代社会との関わり方を、市民活動・貧困問題・労働問題・政治参加・教育問題などから考察する。	
自然 と 科 学	生命倫理学	科学技術の革新や社会構造の変化などにより、医療やケアに関する難しい決定を迫られる場面が増えている。この講義では、毎回、各テーマに関わる様々なモラル・ジレンマを紹介する。受講生の皆さんには、それを「ふ〜ん、そうなんだ」と受け流すのではなく、心のなかの素朴な疑問、ささやかな引っかかりを大切にしながら、正解のわからない問題に真摯に向き合い、考え続ける「芽」を育ててもらいたい。	集中講義
	心理学	人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要である。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にもとづき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解する。受講者自身の体験として理解できることを重視するため、簡単にできる実験的観察やアンケートを頻繁に取り入れながら説明を行う。心理学には、私たちが日常生活を営む上での多くのヒントが詰まっている。	
	化学	化学は、私たちの周囲にある個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問である。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説する。また、日常生活において、私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを理解し、物質を科学的に見る眼を養い、個々の化合物の働きを考える習慣を身に付けて、教養としての知識を持ってください。	

共通教育科目

授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然と科学	生物学	生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを利用して学修する。また、試問によって知識をより深く身につける。 生命体を構成する物質、遺伝子の構造と機能、細胞分裂と細胞の分化、生命体の受精と成長、多細胞生物の自己維持機構、遺伝のしくみ、生態系、生物の進化と多様性、生命科学技術と社会などについて学ぶ。	
	身のまわりの科学	近年、非常に幅広い分野において、科学的な考え方は分野理解のために不可欠な要素となっている。この授業では科学の考え方を知らず、身の回りの様々な現象からいくつかの事例を採り上げ、「実験、体験、経験」を基本にして、「科学はどのようにものを見るのか」について説明を試みる。	
	プログラミング入門	この授業ではスクイークe-toysというマウス操作を基本としたグラフィカルなプログラミング環境を使用し、プログラムとはどういうものなのか、自分のやりたいことをコンピュータに実行させるということとはどういうことなのか等を学ぶ。	
共通教育科目	食と健康	本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目的とする。栄養素の消化・吸収・代謝や人体の構造に関する基礎知識を学び、情報が氾濫する中で正しいものを選択する能力を身につける。また特定保健用食品や食糧問題、生活習慣病、生命倫理についても理解する。	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要不可欠であり、健康・スポーツ科学の入門にあたって、1) 運動、2) 栄養、3) 休養 の3つに関して科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけることが大切である。そして、それらを適切に組み合わせることでより効果的な健康・スポーツ活動が行えるため、本授業ではそれらの基礎知識の習得と健康に関する関心の向上を目的としていく。	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）	自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しみながら正しく安全に実践する。まず、体力測定を行い自己の体力レベルを知り、屋内種目、屋外種目を実施する。種目としてバレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球などの他、ドッジボール、ドッチボール、ネオホッケーを実施する。	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）	自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しみながら正しく安全に実践する。まず、体力測定を行い自己の体力レベルを知り、屋内種目、屋外種目を実施する。種目としてサッカー、ソフトボール、インディアカ、卓球、テニス、ターゲットゴルフ、ペタング、ウォーキング、ジョギングなどを実施する。	

授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	キャリア デザイン	私のためのキャリア設計	自分自身を見つめ、社会が求める「考える力」「話す力」「書く力」「聴く力」「マナー」について考え、社会に出るために必要な基本的なスキルを身につける。また他者とのよりよい関係を構築するスキルを学ぶ。自己分析を通じて自己認識を深め、社会人基礎力などの社会で必要な力を理解し、コミュニケーションや自己表現力向上のための印象マネジメントについて学ぶ。また、働くとはどういう事か、将来の労働環境について考え、ライフスキルについて実践できる力を養う。
	キャリア デザイン	ヒューマンサービスとマネジメント	多職種連携の理論と応用を学習する。学科横断的なグループワークを通して、それぞれの専門領域の枠組みを超えた観点から、予め選定された事例についてアセスメントや対応の方法を検討する。地域に住む患者・家族の事例を様々な専門性から検討することを通じて、専門分野を超えたチームワークの必要性を学び、建学の精神でもある「和」を実践する場としての多職種連携を身につける。
	キャリア デザイン	入門ボランティア	「ボランティアとは何か」を知るとともに、ボランティアに興味を持つ学生の中を押して次のステップへとつなげることを目的とする。そのために、ボランティアの特徴などを知るだけでなく、学内のボランティアセンターについて理解し、ボランティアの実践、相互の情報や共感の共有を行い、ボランティアや利他の精神について考える。なお、ボランティアの実践に際しては、教員と相談しながら、ボランティアセンターの指定されたボランティアの中から選択する。

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 ゼミナール科目	クラスゼミナールⅠ	大学において仲間と共に主体的な学びを行うための基礎を理解し、自らのキャリアデザインとしての目標を設定する。教育学科での学びの特徴を理解し、どのような力を身につける必要があるかを理解する。また、グループでの活動を通して良好な人間関係を構築するとともに、ノートテイキングや調査など、大学での学びに必要なスキルについて、グループでの課題研究、プレゼンテーションを通じて身につける。	共同
	クラスゼミナールⅡ	クラスゼミナールⅠに引き続き、専門の学びを深めるために、教育、保育、子育て支援、学校現場や保育・教育行政等の問題について関心を持つ。新聞記事や論説等の調査や、グループワーク等を通じ教育・保育に関する課題を多角的に理解する。また、教育・保育・福祉の現場で働く現任者を招き、仕事の実態を理解する。	共同
	クラスゼミナールⅢ	1年次に学んだ内容を基盤として、教育・保育・福祉の基本について、興味・関心のあるテーマを設定し、調査研究や研究発表の方法論を学ぶ。自ら調べ、まとめ、発表するという過程の中で、主体的に学習を進め、課題解決の方法を検討する姿勢を身につける。また、他の学生の発表を聞き、質問する力を養う。	共同
	クラスゼミナールⅣ	クラスゼミナールⅢで取り扱ったテーマを基に、グループで課題を共有し、協働でテーマ設定、研究方法、研究計画を検討する。グループによる研究活動を行う過程の中で、自身と異なるアイデアを発見し、学びを深める。グループワークを通じ、他者と協働して課題解決に向かう姿勢や、協調性を養う。また、3年次から開始する卒業研究に向け、自身の興味・関心のあるテーマを焦点化する。	共同
	卒業研究Ⅰ	卒業研究は、自ら研究テーマを決めて、研究可能な仮説を設定して理論的に検証していくプロセスである。自ら積極的に調査・研究を継続して取り組み、教育界や教育現場に新たな提案をしていくような知的活動に取り組むことは、科学的知識を生産するということを学ぶことそのものであり、貴重な学習体験であり、また研究活動といえる。卒業研究Ⅰでは、興味関心や問題意識についてディスカッションやプレゼンテーションを行い、討論の方法やまとめ方等を習得し、個別のテーマを検討する。 (1 關 浩和) SDGsをテーマに現代社会、社会科教育、生活科教育に関する課題の研究指導を行う。 (2 松田 信樹) 子どもの教育についての心理学に関する研究指導を行う。 (3 赤井 利行) 算数・数学教育に関する研究指導を行う。 (4 大江 実代子) 国語科教育、論理的思考力の育成に関する研究指導を行う。 (5 橋本 正巳) 特別支援教育に関する研究指導を行う。 (7 林 敦司) 「子供の心を育てる教師」をテーマとして、研究指導を行う。 (8 半田 結) 保育・幼児教育についての表現に関する研究指導を行う。 (9 古田 薫) 教育制度や学校経営、教員の社会的役割に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 ゼミナール科目	卒業研究Ⅰ	<p>(10 田邊 哲雄) 子どもを取り巻く環境、児童福祉に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 安部 洋一郎) 初等理科教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 石川 恵美) 絵本・紙芝居等の児童文化財を活用した「こどもと言葉」に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 磯野 久美子) 保育・幼児教育における言葉、人間環境に関する研究指導を行う。</p> <p>(14 井上 朋子) 子どもたちに楽しく音楽の魅力を伝えることをテーマとして、研究指導を行う。</p> <p>(15 河野 稔) ICTを活用した教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 澤田 真弓) 幼児教育・保育実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(17 杉田 律子) 特別支援教育領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(18 立本 千寿子) 教育・保育・療育に音楽が寄与する可能性について研究指導を行う。</p> <p>(19 平田 真二) 特別支援教育領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 藤野 正和) 障害等を有する児童生徒に関する障害特性や心理的な特性などに関する研究指導を行う。</p>	
	卒業研究Ⅱ	<p>卒業研究は、自ら研究テーマを決めて、研究可能な仮説を設定して理論的に検証していくプロセスである。自ら積極的に調査・研究を継続して取り組み、教育界や教育現場に新たな提案をしていくような知的活動に取り組むことは、科学的知識を生産するということを学ぶことそのものであり、貴重な学習体験であり、また研究活動といえる。卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで見つけたトピックから研究テーマを抽出し、研究を行うための基本的な知識と方法論、研究手法を学ぶ。研究テーマに基づき、文献を選択し、精読し、まとめ、発表し、ディスカッションすることで、仮説設定、研究計画の立案を行うことができることを目標とする。</p> <p>(1 關 浩和) SDGsをテーマに現代社会、社会科教育、生活科教育に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(2 松田 信樹) 子どもの教育についての心理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 赤井 利行) 算数・数学教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 大江 実代子) 国語科教育、論理的思考力の育成に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 橋本 正巳) 特別支援教育に関する実態把握（アセスメント）の仕方及び指導・支援に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 ゼミナール科目	卒業研究Ⅱ	<p>(7 林 敦司) 「子供の心に点火する道徳授業」をテーマに、教師力について研究指導を行う。</p> <p>(8 半田 結) 保育・幼児教育についての表現に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 古田 薫) 教育制度や学校経営、教員の社会的役割に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 田邊 哲雄) 子どもを取り巻く環境、児童福祉に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 安部 洋一郎) 初等理科教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 石川 恵美) 絵本・紙芝居等の児童文化財を活用した「こどもと言葉」に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 磯野 久美子) 保育・幼児教育における言葉、人間環境に関する研究指導を行う。</p> <p>(14 井上 朋子) さまざまなジャンルや演奏形態の音楽を演奏表現したり、鑑賞したりする中で、各々の音楽性や表現力を磨く。また、子どもを対象とした音楽イベントの企画・実施を通して、音楽実践力を身につける。</p> <p>(15 河野 稔) ICTを活用した教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 澤田 真弓) 幼児教育・保育実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(17 杉田 律子) 特別支援教育領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(18 立本 千寿子) 教育・保育・療育に音楽が寄与する可能性について研究指導を行う。</p> <p>(19 平田 真二) 特別支援教育領域に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 藤野 正和) 障害等を有する児童生徒に関する障害特性や心理的な特性などに関する研究指導を行う。</p>	
	卒業研究Ⅲ	<p>卒業研究は、自ら研究テーマを決めて、研究可能な仮説を設定して理論的に検証していくプロセスである。卒業研究Ⅲでは、仮説検証に向けての先行研究の調査や文献講読、データ分析・収集を行うとともに、各教科のカリキュラムや学習指導内容の構造的な理解、各教科の特徴的な教育方法、教育評価等、多方面から幅広く検討できることを目標とする。</p> <p>また、得られた知見をプレゼンテーションやレポート発表することで、教師として必要な、自律的に研究に取り組む態度、課題を解決する力、論理的に思考する力、創造的に表現する力を身につける。</p> <p>(1 關 浩和) SDGsをテーマに現代社会、社会科教育、生活科教育に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(2 松田 信樹) 子どもの教育についての心理学に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	ゼ ミ ナ ー ル 科 目	卒業研究Ⅲ (3 赤井 利行) 算数・数学教育に関する研究指導を行う。 (4 大江 実代子) 国語科教育, 論理的思考力の育成に関する研究指導を行う。 (5 橋本 正巳) 特別支援教育に関する実態把握 (アセスメント) の仕方及び指導・支援に関する研究指導を行う。 (7 林 敦司) 「子供の心に点火する道徳授業」をテーマに, 教師力について研究指導を行う。 (8 半田 結) 保育・幼児教育についての表現に関する研究指導を行う。 (9 古田 薫) 教育制度や学校経営, 教員の社会的役割に関する研究指導を行う。 (10 田邊 哲雄) 子どもを取り巻く環境, 児童福祉に関する研究指導を行う。 (11 安部 洋一郎) 初等理科教育に関する研究指導を行う。 (12 石川 恵美) 絵本・紙芝居等の児童文化財を活用した「こどもと言葉」に関する研究指導を行う。 (13 磯野 久美子) 保育・幼児教育における言葉, 人間環境に関する研究指導を行う。 (14 井上 朋子) 日本・諸外国の音楽教育事情を知るとともに, 将来教育現場で活用できる音楽教材や指導法を探究する。 (15 河野 稔) ICTを活用した教育に関する研究指導を行う。 (16 澤田 真弓) 幼児教育・保育実践に関する研究指導を行う。 (17 杉田 律子) 特別支援教育領域に関する研究指導を行う。 (18 立本 千寿子) 教育・保育・療育における音楽学や臨床心理学の在り方や意義について研究指導を行う。 (19 平田 真二) 特別支援教育領域に関する研究指導を行う。 (20 藤野 正和) 障害等を有する児童生徒に関する障害特性や心理的な特性などに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	ゼミ ナール 科目	<p>卒業研究は、自ら研究テーマを決めて、研究可能な仮説を設定して理論的に検証していくプロセスである。卒業研究Ⅳでは、卒業研究Ⅰ～Ⅲまで取り組んできた研究成果を基にして、研究レポートや論文、プレゼンテーション等に研究の集大成としてまとめることで、保育・教育現場での実践につなげられるための基本的素養を身に付け、自己の教育観を明確にすることを目標とする。研究テーマに基づき、研究成果を卒業論文にまとめ、口頭発表する。</p> <p>(1 關 浩和) SDGsをテーマに現代社会，社会科教育，生活科教育に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(2 松田 信樹) 子どもの教育についての心理学に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 赤井 利行) 算数・数学教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 大江 実代子) 国語科教育，論理的思考力の育成に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 橋本 正巳) 特別支援教育に関する実態把握（アセスメント）の仕方及び指導・支援に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 林 敦司) 「子供の心に点火する道徳授業」をテーマに，教師力について研究指導を行う。</p> <p>(8 半田 結) 保育・幼児教育についての表現に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 古田 薫) 教育制度や学校経営，教員の社会的役割に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 田邊 哲雄) 子どもを取り巻く環境，児童福祉に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 安部 洋一郎) 初等理科教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 石川 恵美) 絵本・紙芝居等の児童文化財を活用した「こどもと言葉」に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 磯野 久美子) 保育・幼児教育における言葉，人間環境に関する研究指導を行う。</p> <p>(14 井上 朋子) 音楽教育をテーマに研究指導を行う。また，卒業研究（実技）では，卒業発表会での表現発表に向けてより豊かな表現ができるよう実技を修得する。</p> <p>(15 河野 稔) ICTを活用した教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 澤田 真弓) 幼児教育・保育実践に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 教育・保育実践科目	ゼミナール科目	卒業研究Ⅳ (17 杉田 律子) 特別支援教育領域に関する研究指導を行う。 (18 立本 千寿子) 教育・保育・療育における音楽学や臨床心理学の在り方や意義について研究指導を行う。また、卒業研究(実技)では、卒業発表会での表現発表に向けてより豊かな表現ができるよう実技を修得する。 (19 平田 真二) 特別支援教育領域に関する研究指導を行う。 (20 藤野 正和) 障害等を有する児童生徒に関する障害特性や心理的な特性などに関する研究指導を行う。	
	こどもと健康	領域「健康」の指導は、子どもの心身の発達や基本的生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項についての知識や技能を身につける。子どもの心身の健康状態を把握する方法、病気とその予防等の安全管理や安全教育、運動発達の理解をする。幼児教育者・保育者としての、子どもの健康を守り育てるために必要な知識と技能を身につける。	
	こどもと人間関係	子どもの人と関わる力を養う領域「人間関係」の指導の基盤となる専門的事項についての基礎的知識と技能を習得することを目的とし、子どもは、他者や集団との関係の中で人と関わる力が育つことを、幼稚園や保育所での遊びや生活場面の具体的な事例等から学ぶ。	
	こどもと環境	幼稚園教育要領に示された基本を踏まえ、領域「環境」のねらいと内容を通して、乳幼児の身近な環境の基本的な捉え方を理解し、子どもの育ちと環境との関連性において、心を動かす活動とは何かを、環境とかがわる力を育てるという視点から、環境の意味や特性、保育者の役割について考える。	
	こどもと言葉	領域「言葉」の指導の基礎となる、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を学ぶ。子どもが年齢に応じた「言葉」を獲得する意義と機能について理解し、保育者として子どもの言葉を引き出し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。視聴覚教材等ICTを活用した授業を展開する。	
こどもと表現	子どもの表現は、他の領域と相互に関連しあいながら総合的に発達していくことをふまえながら、音楽・造形・身体などの表現領域を中心に、子どもの表現の姿やその発達の様子、感性や創造性を豊かにする様々な遊びや環境の構成などについて実践的に学ぶ。子どもが表現することの喜びを感じ感性を磨いていけるように、授業では、諸感覚を通じた様々な表現活動を通して、知識や技能、表現力を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (8 半田 結/3回) 子どもの造形表現と発達について、その表現特徴や他の領域と組み合わせた表現遊びについて学ぶ。 (18 立本 千寿子/3回) 子どもの音や音楽に関わる発達と、表現の特徴、自然の音、リズム楽器、歌などを用いた遊びについて学ぶ。 (49 永井 夕起子/3回) 子どもの身体の発達と表現の特徴と、ステップ、ボディーパーカッション、言葉などを用いた色々なリズム遊びについて学ぶ。 (8 半田 結・18 立本 千寿子・49 永井 夕起子/6回) 音楽・造形・身体における表現領域において子どもの表現や発達を理解し、子どもの創造力を育むための知識・技能について学ぶ。	オムニバス方式 共同(一部)	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 幼児教育・保育実践科目 教育・保育実践科目	こどもとサイエンス (こどもと科学遊び)	本授業では学生による20程度のグループを組織し、学生の協働により科学遊びの模擬実践を行う。模擬実践は理科クラブ等での指導を想定し、準備や片付けから、活動後の振り返りまでを学生が企画、準備する。受け身として触れた教材はそのほとんどをすぐに忘却してしまうが、このように自らの力で準備、実践した教材は、教員となった際に自分の得意教材として日々の指導に役立つものである。教員となる前に少しでも多くの自分の持ち味を増やして欲しいと考えている。	
	保育内容総論	幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園の教育・保育は、園生活全体を通して総合的に指導する考え方を理解する。保育実践を行う上で基盤となる知識や技能の習得を目指す。幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。今日の保育の課題を整理し、保育を実践する力につながる素地を培う。	
	保育内容「健康」の指導法	領域「健康」では、乳幼児期の心身の発達過程や健康を育む保育について学ぶ。子どもの心身の発達は、乳幼児期の生活と深く関連していることを踏まえ、今日の子どもを取り巻く環境の変化から子どもに関わる健康課題や、子どもの心身が育つ環境について考える。「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。	
	保育内容「人間関係」の指導法	乳幼児は子どもの人間関係の基礎を作る重要な時期であり、その多くは人との関わりの中で培われていく。「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身に付いていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担うことへの理解を深める。	
	保育内容「環境」の指導法	現代の乳幼児期を取り巻く環境やその関わりについて専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。環境を通して乳幼児の発達に即した深い学びが実現する過程を幼稚園、こども園、保育所等の実践事例から学ぶ。もの・人・自然・社会などの環境や環境の構成について興味関心を深め、領域「環境」に関わる指導場面を想定し、保育内容を構想する力や指導方法を身に付ける。	
	保育内容「言葉」の指導法	子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域を関連させて理解を深める。その上で、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導計画を想定して保育を構想する方法を身に付ける。視聴覚教材等ICTを活用した授業を展開する。	
	保育内容「表現」の指導法	<p>保育内容の各領域が相互に関連し合っていることをふまえながら、身体・造形・音楽などの表現活動を中心に、子どもの実態に応じた保育内容の展開や指導法について学ぶ。身体の動きや五感、音、リズム、ものの色や形、質感など、身の回りにおける表現のきっかけとなる様々なものや方法を通して、表現活動の特徴や面白さを確認しながら、それらの応用や展開、発展を考える。子どもが主体的に取り組めるような総合的な表現活動を構想、計画、実践できる力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 半田 結・18 立本 千寿子・49 永井 夕起子/9回)</p> <p>領域「表現」のねらいと内容を理解し、こどもの表現の背景や要因を踏まえ、子どもの表現活動がさらに広がるための指導法を考察する。総合的な表現活動を実践するための指導案の作成、教材研究を通じ、子どもが主体的に取り組み成長を促す方法を考える。</p> <p>(8 半田 結/2回)</p> <p>身近にあるものやリサイクル材を使用した総合的な表現活動を通じ、表現活動の特徴や面白さを整理する。また、さまざまな実践例を踏まえ自らの保育構想の向上を図る。</p> <p>(18 立本 千寿子/2回)</p> <p>音や声、楽器を使った表現活動を通じ、表現活動の特徴や面白さを整理する。また、さまざまな実践例を踏まえ自らの保育構想の向上を図る。</p> <p>(49 永井 夕起子/2回)</p> <p>五感や身体を使った総合的な表現活動を通じ、表現活動の特徴や面白さを理解する。また、さまざまな実践例を踏まえ自らの保育構想の向上を図る。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 教育・保育実践科目 幼児教育・保育実践科目	音楽Ⅰ	本授業では、個人レッスンと集団授業を組み合わせながら、幼児教育及び小学校教育の現場で必要となる音楽の基礎的な知識と技能を身に付ける。個人レッスンでは、個々のレベルに合った楽曲に取り組み、ピアノと弾き歌いの技能の修得を目指す。また、集団授業では、読譜に必要な知識を身に付けるとともに、独唱や合唱などの演習を通じて歌唱表現に関する知識と技能を修得する。	共同
	音楽Ⅱ	本授業では、個人レッスンと集団授業を組み合わせながら、幼児教育及び小学校教育の現場で必要となる音楽の基礎的な知識と技能を身に付ける。個人レッスンでは、個々のレベルに合った楽曲に取り組み、ピアノと弾き歌いの技術の習得と表現力のさらなる向上を目指す。また、集団授業では、コードを理解し、伴奏づけや変奏に関する技能を身に付けるとともに、器楽アンサンブル演習を通じて、アンサンブルや合奏に関する知識と技能を修得する。	共同
	総合表現教育Ⅰ	子どもたちの豊かな感性を育むには、教育者や保育者自身の感性や表現力が重要である。本科目では、音楽・造形・身体表現の領域や科目の枠組みに捉われない、感覚的な表現や総合的な表現を体験的に学ぶ中で、まずは諸感覚をひらき、学生自身の感覚や感性に気付くことを目指す。また、他者に自分の思いを表現したり、他者と共に表現したりすることを通して、自らの感性をさらに磨くとともに、コミュニケーション力や表現力の向上につなげる。	共同
	総合表現教育Ⅱ	「総合表現教育Ⅱ」では、「総合表現教育Ⅰ」での諸感覚を用いた感覚的な表現を基に、言語、自然、社会などを含めた他分野との領域横断的な表現を体験的に学ぶ。多様な表現活動を通して、学生自身の感受性、コミュニケーション力、表現力をより一層高めるとともに、子どもの未分化な表現を体験しながら、幼小連携を意識した新しい表現方法や指導法を探求する。	共同
	教師・保育者論	子どもを取り巻く今日の状況や課題について理解し、その変化に応じた教育・保育のあり方を学ぶとともに、教育者・保育者に求められる役割や資質・能力、職務内容や組織の一員としての教育者・保育者のあり方や専門性について理解する。幼稚園や保育所、子ども園等の施設で子どもとともに成長できる教育者・保育者のあり方を学ぶ。	
	教育・保育の課程と評価	幼稚園、保育所、認定こども園における要領・指針の性質や位置づけ、改訂の社会的背景を理解し、教育・保育において、カリキュラムが持つ意義と役割を理解し、編成の原理と方法を学ぶ。子ども理解に基づく教育・保育過程の循環とカリキュラム・マネジメントについて学び、これらを生かした教育・保育の質向上の取り組みについて理解する。	
	幼児理解	幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考える。また幼児教育を志す者としての基本的態度や、観察と記録を通じた個と集団の関係の理解・援助のあり方、保護者の心情を踏まえた保護者対応の実践について解説する。	
	保育原理	保育所保育指針における保育の基本について理解し、保育の意義、基本原理、保育の内容と方法を学ぶ。保育という営みを制度や歴史の変遷、内容と方法、子どもの発達課程などの主要な観点から考察する。また、保育の現状と課題についても理解を深め、保育者となるために必要な法律や制度、保育者としての基礎的知識の獲得を目指す。	
	こども家庭福祉	現代社会におけるこどもと家族を取り巻く社会的側面について理解し、こども家庭福祉の基本的視点及び知識を身につけることを目的とする。こども家庭福祉の理念と歴史の変遷や、こどもと家族が抱える福祉ニーズ、法制度、実施体制について体系的に学習し、児童家庭福祉の現状と動向を踏まえ、今後のあり方を考察する。こども・家庭を取り巻く社会的側面から根拠に基づく総合的な実践を展開するための知識を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 幼児教育・保育実践科目	社会福祉	現代社会の状況を踏まえる中で、保育士として保育実践を行う専門職の基礎的体系をなす「社会福祉」について、その基本的な思想、理念とそのシステムとしての枠組みを理解し体得する。 具体的にはノーマライゼーション等の社会福祉の理念を理解し、社会福祉の歴史、障害者福祉、高齢者福祉、児童福祉そして生活保護等の領域における諸サービスの機能を理解する。さらに、これらのサービスにおける尊厳の保持と自立支援について説明ができる。 (オムニバス方式/全15回) (6 河野 真/3回) 社会福祉問題の捉え方、制度政策論、社会福祉の行政組織と財政について学ぶ。 (10 田邊 哲雄/12回) 社会福祉の定義とその枠組み、社会福祉サービス利用の仕組み、社会福祉の機関と施設、児童家庭福祉の仕組みと施設、障害者福祉の仕組みと地域福祉、高齢者福祉の体系と課題、社会福祉の援助と方法について学ぶ。	オムニバス方式
	子ども家庭支援論	現代家族の子育て環境における、子育て不安、育児ストレス、児童虐待等の要因について検討し考察する。その上で、どのような家庭支援が必要なかを、家庭の背景と援助の在り方について、実際の保育現場での事例を交えながら理解が深められるようにする。また、保育者にはどのような社会的役割が求められているのかについても理解し、社会的支援のあり方について考察する。	
	子ども家庭支援の心理学	人間の生涯発達と初期経験の重要性に加え、多様化する家族・家庭の理解や子育て家庭における現状と課題について理解し、子どもと保護者、家庭に対して専門家としての関わりを学ぶ。子どもの育ちに関する発達心理学的視点、および家族・家庭に関する社会学的視点を獲得し、それらを踏まえて現代社会の子育て家庭を取り巻く課題を理解し、支援方法のあり方を模索する。	
	子どもの保健	子どもの身体的な発達・発達の特徴を理解し、子どもの心身の健康状態とその把握の方法についての知識・技術を身につける。また、乳幼児が罹患しやすい病気についても理解する。子どもの心身の健康について考えることができ、子どもの健康増進を図る必要性を学習する。現代社会における子どもがもつ健康問題を把握し、乳幼児・保護者を取り巻く環境から保育者として必要となる、健康状態の観察や不調の早期発見、疾病の予防及び適切な対応を身につける。	
	子どもの食と栄養 I	食事は子どもにとって身体の成長のための栄養摂取だけでなく、基本的な人間形成に極めて重要である。健全な心身の発達を目指すため、子どもの保育に関わる人々が乳幼児期の心身の発達に關与する栄養学・食品学の知識を持ち、子どもの成長との関連を正しく認識することが求められる。「子どもの食と栄養 I」では、栄養学・食品学の基礎的事項を習得し、自分自身の健康管理を含めて食に関わる実践的態度を深めていく。	
	子どもの食と栄養 II	生涯にわたって健康な生活を送るために基本としての「食を営む力」は、乳幼児期から発達過程に応じた豊かな食の体験を積み重ねていくことによって育まれる。「子どもの食と栄養 II」では、保育士として子どもの食に関する支援をすすめる上で必要な知識を保育現場で実践できる力につなげていく。具体的には、幼児期から学童・思春期における栄養と食環境、また特別な配慮を要する子どもの栄養に関する知識とその対応など、食に関して様々な視点から子どもの育ちを支える能力の育成を目指す。	
	乳児保育 I	保育所・認定子ども園・乳児院・家庭における乳児の保育に必要な、0、1、2歳児の発達を正しく捉え、実践の基礎を学ぶ。また、乳児保育の現状と課題を通して、保育所の役割及び乳児保育に必要な知識・技術を学ぶ。本科目では、乳児保育の意義・目的と社会的役割を理解し、教職員間の連携や協働、保護者との連携、地域の諸機関との連携など、保育者が担う役割についても理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	幼児教育・保育実践科目	乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅰで学んだ理論・知識を基礎に、乳児の発達に沿った保育実践のスキルを学ぶ。乳幼児の発達や生活、環境等の全般的な保育の内容について具体的に理解を深める。特に、発達段階に個人差があることを踏まえながら、保育園・認定こども園・乳児院等において、乳児を集団で保育するための保育内容について学ぶ。また、保育者として必要となる乳児を養育する保護者への思いや配慮、その援助方法について理解する。
		こどもの健康と安全	「こどもの保健」での学習を基礎に、乳幼児の心と体の健康問題・事故の特徴・災害について園で起こった事例を取り入れ、乳幼児の異変に対して素早い判断と的確な対応が行え、保育者には危機管理がのしかかっていることの重要性を学習する。また、保育現場で保護者からの相談に対して、保護者の不安を軽減することができるようになる学習でもある。
		特別支援教育Ⅰ	様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
		特別支援教育Ⅱ	様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児の発達や生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法をグループ研究を通して理解する。
		社会的養護Ⅰ	現代社会における社会的養護の歴史の変遷を学び、社会的養護の概念と基本原則の意義を理解する。具体的な社会的養護の制度を理解し、家庭養護と社会的養護の繋がりや連携を理解し、施設養護でのこどもの処遇問題や権利擁護や自立支援及び家族再統合支援について理解を深め、保育者の役割を踏まえながら、社会的養護を必要とする子どもやその親・家族への支援について学ぶ。
		社会的養護Ⅱ	保育者はこどもを育てる保護者に寄り添い、必要に応じて情報や支援の手立てを講じる役割を担っている。入所児への保育や保護者支援に加え、地域の子育て家庭への支援も保育士の重要な役割である。本科目では、施設養護の生活特性にも目を向けながら、子育て家庭の状況や支援ニーズの把握、支援の方法とその実際について学び、具体的な支援活動について理解をするとともに、職員間の連携や地域関係機関との連携など支援体制について理解を深める。
		子育て支援	子育て支援の理念や歴史的・文化的諸相やその実践について学び、主体的に子育て支援を担うための知識・技術を学ぶ。子育て支援を担う幼稚園や認定こども園、保育園、子育て支援センターなどの現状を知り、子育て支援活動の計画立案の方法や、保護者支援の方法など、グループワークを実施しながら理解を深める。子育て支援の基本的価値・倫理、子育て支援の基本的技術、支援ニーズのアセスメント方法について、具体的な事例をもとに自ら検討する力を身につける。
	青年心理学	青年期は一生にわたる発達の大きな節目となる発達段階である。人間の生涯発達を理解する上で、重要な意味を持つ青年期の発達の特徴を、身体的・社会的・心理的側面から概観する。これまでに心理学の世界で提起されてきた青年心理に関する諸説に触れつつ、受講学生自身を含めた青年の心のあり方について考察する。	
初等教科内容科目	初等国語科内容論	小学校指導要領「国語科」に示されている目標や内容を踏まえ、具体的な言語活動の映像を視聴したり、体験したりしながら「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」について理解し、小学校における国語科の授業を行う教員として必要となる基礎的な知識と技能を習得する。言語の働き、言語文化、読むこと（文学的文章、説明的文章、読書指導）、書くこと、話すこと、聞くこと、書写について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 教 育 ・ 保 育 実 践 科 目	初等社会科内容論	学習指導要領に示される社会科の教科理念を把握し、社会科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など初等社会科の授業づくりに関する基本を理解することを目標とする。2年次履修の「初等社会科教育法」の前提の科目として、社会科に関する基礎的知識を修得する。	
	初等算数科内容論	小学校における算数科の授業を担当するために必要な(数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用)の実践的な数理運用力を、授業場面を意識しながら身に付ける。また、幼稚園、小学校、中学校の関連性を踏まえながら、小学校における算数科を担当するための必要な背景となる知識を修得する。	
	初等理科内容論	教科の指導にあたっては、教師自身に指導内容に関する深い理解が求められる。本授業では、小学校理科教科書を参考に実際の実験や観察を交えて体験的に学ぶことで、教員として理科授業を行うために十分な、小学校理科における指導内容の習得を目指す。小学校理科における指導内容としては、科学的知識や実験器具の使い方等の技能だけでなく、思考力としての問題解決の力を取り扱うものとする。	講義 9時間 実験・実習 6時間
	初等生活科内容論	生活科の教科理念を把握し、生活科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など生活科の授業づくりに関する基本を理解することを目標とする。2年次履修の「初等生活科教育法」の前提の科目として、生活科に関する基礎的素養を修得する。	
	初等音楽科内容論	小学校音楽科の授業内容を理解するとともに、授業実践に必要な知識や技能を修得することを目的とする。音楽科授業において、児童に音楽活動の楽しさを伝えるには、教師自身の多様で豊かな音楽体験が大切である。この授業では、教科書教材を用い、実際の授業場面を意識しながら体験的に学ぶ。表現活動(歌唱、器楽、音楽づくり)、鑑賞活動を指導する際に必要となる音楽的な知識と技能を習得する。	講義 9時間 演習 6時間
	初等図画工作科内容論	本授業では、小学校学習指導要領の「図画工作」の目標を理解した上で、図画工作に関する基礎的な力を身につけることを目指す。図画工作の授業を構想・計画・実践するために必要な造形的な力を育成するために、平面や立体の表現制作を体験し、鑑賞活動の方法と展開などについて学ぶ。	講義 9時間 演習 6時間
	初等家庭科内容論	家庭科教育は教科横断的に取り扱われる要素が多く、他教科とのつながりを確認しながら、その目的や内容について講義を行うと同時に、指導に必要な基礎的知識と技術について理解を図る。また、家庭科の内容は、教科から離れて、小学校生活全般に関わる指導の要領(給食・清掃・学級活動・特別活動・保護者会等)と重複しており、小学校教員としての資質向上にもつながることを確認する。	
	初等体育科内容論	小学校における体育科の目的・内容に関わる専門的知識を小学校学習指導要領解説体育編及びスポーツ諸科学(運動生理学、スポーツ心理学、スポーツバイオメカニクスなど)の知見をもとにした講義・演習を通して理解する。また、演習では、小学校体育授業で散見される問題を取り上げ、議論することを通して、その問題の根本的原因について考究する。	講義 9時間 実験・実習 6時間
	初等英語科内容論	本授業では、小学校での授業実践に必要な英語運用能力と英語に関する基礎知識を身につける。小学校外国語活動における第二言語習得の理論を理解し、聞く力、話す力、読む力、書く力を伸ばす学習法と指導、異文化理解について学ぶ。また、指導案や教材研究では、児童の身近な話題などを例にしながら理解を深める。中学校との関連なども踏まえながら、児童にとって分かりやすい授業について検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 教育・保育実践科目 初等教科指導法科目	初等国語科教育法	国語科の授業を行う上で必要な単元構成、教材研究、授業構想についての具体的に指導方法に触れる。まず、学習指導案、発問構成、板書計画等、基本的な要件を理解する。また、これからの授業展開に欠かせないタブレット端末等ICTの効果的な活用や対話的な学習を成立させるポイント等、演習的な形態を取り入れ、理解と実践力を養う。	
	初等社会科教育法	社会科の教科理念を把握し、社会科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など社会科の授業づくりに関する基本を理解する。また、本授業により、社会科の教師として1単元、1時間の授業を行うためには、「何をどのようにすればよいのか」を体得し、その学修成果を教育実習やその後の教育実践に活かせるようになることを目指す。	
	初等算数科教育法	受講者が学習指導要領に示された小学校算数科の教育目標や指導内容を理解する。また、小学校算数科における児童の学習の実際や特徴について理解するとともに、学習評価の在り方について理解する。そして、小学校算数科の実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。さらに、小学校算数科における基本的な指導方法を理解し、授業づくりの方法を身に付ける。	
	初等理科教育法	本授業で扱う本質的理解は、指導要領における理科の目標の理解とし、各授業時間の学習における学びを、指導要領における目標の文言に結び付けて理解を深めるものとする。 理科の好きな児童は多いが、教師にとって理科は指導の難しい教科であるのとらえられることも多い。児童の主体的な問題解決を通して、資質・能力の育成を行うためにも、理科の面白さを教師が再認識することが大切だと考える。本授業では、理科授業を指導する方法だけでなく、理科教育研究の知見から学ぶ理科教育の在り方への理解とともに、理科を学ぶことの面白さと理科を指導することの喜びを伝えたい。そのためにも授業全体の構成は総論から各論への流れではなく、各論から総論への具体例を通した帰納的な流れを中心とする。	
	初等生活科教育法	生活科の教科理念を把握し、生活科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など生活科の授業づくりに関する基本を理解する。また、生活科教師として1単元、1時間の授業を行うためには、「何をどのようにすればよいのか」を体得し、その学修成果を教育実習やその後の教育実践に活かせるようになることを目指す。	
	初等音楽科教育法	小学校音楽科における目標と指導内容を理解するとともに、授業実践に必要な知識と指導技術、また授業づくりの方法を身に付けることを目的とする。具体的に、まずは小学校音楽科学習指導要領に示されている各学年の目標及び指導内容、また児童期における音楽学習の実際と学習評価の在り方について学ぶ。最終的には、模擬授業の実施と振り返りを通して、自ら授業改善に取り組める実践的指導力を身に付ける。	講義 10時間 演習 5時間
	初等図画工作科教育法	小学校の図画工作科の内容と指導法について、具体的な事例を取り上げながら、体験的に学ぶ。小学校図画工作科学習指導要領をもとに、図画工作科の理念や背景、学習指導、小学校図画工作科の目標や内容等をふまえ、現代的な課題の理解を深める。まとめとして、図画工作科の授業計画の一部を構想、計画して模擬授業を行い、研究討議を行う。	講義 10時間 演習 5時間
	初等家庭科教育法	小学校学習指導要領（家庭編）の内容を踏まえて、単元ごとの学習目標を明確にした指導案作成を行うことによって、指導の方法・形態は多様にあることを理解する。更に模擬授業を通して実践力を高めると同時に、指導と評価の一体化について考察しながら授業技術の向上を目指すことを目標とする。	
	初等体育科教育法	1年次で学修したことを踏まえ、実践的指導力の習得をめざす。具体的には、「できない子ども」に対する具体的指導法（例えば、跳び箱が跳べない子どもへの指導、長縄跳びができない子どもへの指導など）を実技を通して学ぶとともに、体育科学習指導案の作成によって実践力の向上を図る。	講義 8時間 実験・実習 7時間

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育・ 保育 実践 科目	初等 教科 指導 法 科目	初等英語科教育法	小学校学習指導要領に定められている外国語活動・外国語科の指導内容の基準を踏まえて、授業で使用する英語表現や英語の本や音楽などの教材の活用について学ぶ。また、「初等英語科内容論」での学びを含め英語科教育における理論を指導実践へ応用できる力を養う。英語を学ぶ意義について、小学校・中学校・高等学校の繋がりを踏まえながら検討し、英語教育のあり方について理解を深め、実践的指導力を身につける。
	専門 教育 科目	こども 支援 発展 展 科 目	個別教育計画概論
個別教育計画作成演習			個別教育計画 (Individualized Education Plan ; IEP) は、学習者一人一人のニーズを正確に把握し、個別最適化された教育を行うことを目的とした教育計画である。本授業では、学習者個々の特性を正確に把握した上で教育計画を作成し、個別教育計画に基づいた教育の実践方法を体験的に学習する。
ふれあい体験活動		本授業では、幼稚園、小学校及び特別支援学校において、体験的に学校教育に触れる機会を設定することで、児童理解を深める。授業及び保育参観をはじめ、現職教員の指導の下、こどもたちとのふれあいを中心とし、見学・観察・参加の体験を通して児童理解を深め、教員となる意欲と構えを高めるとともに、4年後の自分をイメージし、キャリアデザインを考える。	
インターンシップ I		加古川市教育委員会と連携し、地域の幼稚園、小学校へ赴き現場体験を行う。現場教員の指導・監督のもと、学習指導・学級指導・生徒指導・保育等の実際をはじめ、学校園の教育活動の運営に関する事項等、教員の職務全般について、多角的・実践的な研修を行う。本インターンシップを通して、こども、児童の理解、教員の役割や仕事を理解し、集団としてのこどもの成長や気づきなど、教員として求められる観察する目を養う。	共同
インターンシップ II		加古川市教育委員会と連携し、地域の幼稚園、小学校へ赴き現場体験を行う。現場教員の指導・監督のもと、学習指導・学級指導・生徒指導・保育等の実際をはじめ、学校園の教育活動の運営に関する事項等、教員の職務全般について、多角的・実践的なインターンシップを通じて、小学校・幼稚園現場で働くことのやりがいと意義を確認する。	共同
防災とコミュニティ		近年、自然災害による被害は拡大の一途をたどっている。このような流れを受け、身近な地域・コミュニティ、学校教育においても防災・減災の取組はますます重要視されている。身近な地域・コミュニティおよび学校教育を対象とした防災・減災の取組を取り上げ、防災・減災に関する取組・制度や教育論を知り、それを踏まえ身近な地域・コミュニティに属する一員として防災・減災に関する取組について議論したり、提案したりする力の育成を目指す。	
子育て支援地域活動 I		地域子育て支援活動での実践を中心に経験を深め、実践的知識や技術につながる素地を培うことを目的とする。子育て支援の理念や制度、歴史的経緯、子育て支援の現状を学び、子育て支援活動での実践と併せて地域や保護者のニーズに合わせた支援のあり方について理解を深める。グループワークで検討した教材制作や環境構成を活用し、実践演習に参加、次への課題を検討する。	
子育て支援地域活動 II		地域子育て支援活動での実践を中心に経験を深め、実践的知識や技術を培うことを目的とする。保護者支援の意味や方法、子ども理解の方法、地域資源の活用や地域連携についても学び、子育て支援活動での実践と併せて地域や保護者のニーズに応じた子育て支援のあり方について理解を深める。実践演習に参加し、活動の実際を学んだ後、振り返りを行うことで、子育て支援に貢献する力を身につける。	
学校・ 地域 教育 活動 発展 展 科 目			

授 業 科 目 の 概 要					
(教育学部教育学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門 教育科目	教職 発展科目	ICT 活用科目	学校教育におけるICT活用	学校教育においてGIGAスクール構想が進み、児童生徒1人1台のPCやタブレット端末や情報機器等を用いた教育環境が整備されてきている。ICT環境の充実とともに、教員として校務および授業の教材開発に関わる上でのICTスキルの向上が求められている。学校教育のあらゆる場を想定しながら、各種アプリケーションソフトを用いたICT活用により、知識と技術を身につける。各教科の指導においても効果的なICT活用ができることを目指す。	
			情報社会と情報モラル教育	情報社会で活動するうえで必要な考え方と態度をこどもたちに指導できることを目指し、従来の情報モラル（情報倫理を含む）および、メディアリテラシーやネット関連の権利などの現代的な課題について学び、高度に情報化する社会で活動するための知識と態度を身につける。情報モラル全般に関する講義を行い、演習を通じて理解を深める。また、デジタル・シティズンシップのような現代的な考え方についても議論する。	
			情報活用の実践Ⅰ	ICTを活用した授業や活動を実践できることを目指し、各教科等での事例から、教科の特性や学習過程等を踏まえたICT活用場面を理解し、各教科におけるICT活動指導力を身につける。教科としては、国語科、算数科、理科、社会科、生活科を扱う。また、学校現場で使用されているビジュアル型のプログラミング言語を用いて、演習形式でプログラミングの基礎を体験し、プログラミングの思考等とプログラミング教育を行う際に必要となる基本的な操作および方法論を体験的に学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (1 關 浩和・15 河野 稔／2回) 社会科と生活科でのICTの活用において、社会科と生活科の学習過程とICT活用場面について理解する。社会科と生活科でのICT活用の特性について考察する。 (3 赤井 利行・15 河野 稔／2回) 算数科でのICTの活用において、算数科の学習過程とICT活用場面について理解する。算数科でのICT活用の特性について考察する。 (4 大江 実代子・15 河野 稔／2回) 国語科でのICTの活用において、国語科の学習過程とICT活用場面について理解する。国語科でのICT活用の特性について考察する。 (11 安部 洋一郎・15 河野 稔／2回) 理科でのICTの活用において、理科の学習過程とICT活用場面について理解する。理科でのICT活用の特性について考察する。 (15 河野 稔／36・穂積 隆広／5回) プログラミング教育の基本的な考え方とプログラミング思考、プログラミング言語を用いて、各教科等で実施されたプログラミングを体験的に学ぶ。 (15 河野 稔／2回) 学校教育におけるICTを活用した学習場面について、学習形態と関連付けて理解する。また、学習場面に合わせたICT活用の留意点について考察する。	オムニバス方式 共同（一部）
			情報活用の実践Ⅱ (デジタル教科書の活用を含む)	ICTを活用した授業や活動を実践できることを目指し、各教科等での事例から、教科の特性や学習過程等を踏まえたICT活用場面を理解し、各教科におけるICT活動指導力を身につける。教科としては、音楽科、図画工作科、外国語科を扱う。デジタル教科書を活用した授業デザインやデジタル教材との連携も学ぶ。さらに、学校現場で使用された指導事例や教材等を分析し、模擬指導を実践することで、プログラミング教育に関する基礎的な知識と取り組み方を実践的に身につける。	オムニバス方式 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ICT活用科目	情報活用の実践Ⅱ (デジタル教科書の活用を含む)	(オムニバス方式/全15回) (8 半田 結・15 河野 稔/2回) 図画工作科でのICTの活用において、図画工作科の学習過程とICT活用場面について理解する。図画工作科でのICT活用の特性について考察する。 (14 井上 朋子・15 河野 稔/2回) 音楽科でのICTの活用において、音楽科の学習過程とICT活用場面について理解する。音楽科でのICT活用の特性について考察する。 (15 河野 稔・36 穂積 隆広/5回) 指導案や教材を参考にプログラミング教育の模擬授業をグループで設計、実施し、改善策を検討する。 (15 河野 稔・80 大牛 英則/2回) 外国語科でのICTの活用において、外国語の学習過程とICT活用場面について理解する。外国語科でのICT活用の特性について考察する。 (15 河野 稔/4回) 指導者用、学習者用デジタル教科書の特徴や活用方法を理解し、デジタル教材等との連携や情報活用能力との関連について考察する。	
	教育データの利活用	GIGAスクール構想により児童生徒1人1台端末の環境が進み、児童生徒の学習・生活に関するデータや教師の指導・支援に関わるデータを収集し活用できる環境が整いつつある。 この科目では、これらの教育データを活用した個別最適な学びとその支援ができるようになることを目指し、教育データの利活用に関する考え方、教育データの種類と特性、利活用の事例を学ぶ。また、データ活用に関する基本的な考え方である、データリテラシーについても取り上げる。	共同
	発達障害児への支援	発達障害のこどもの学校園での実際場面における困り感について理解し、特性に応じた具体的な支援方法について考えることで、発達障害の子どもを含む学級経営や保育・学習指導を行うための実践力を身につける。疑似体験を通じ、発達障害児の特性を知り、課題のアセスメント、支援のあり方を検討する。また、「通級指導教室」担当教員をゲストスピーカーとして、実際の教育現場での実践について学ぶ。	
	社会的スキルトレーニングの理論と実践	この授業では、子どもの発達に合わせた「社会的スキルトレーニング：SST」とライフスキルトレーニングの理論を学ぶ。そして支援が必要な子どもたちの様々なスキル（ソーシャルスキル・コミュニケーションスキル・アカデミックスキル・ライフスキル）を育てていくときのコツを学び、実践に活かすことができるようグループでの演習も行っていく。	
	スクールソーシャルワーク論	学校という教育の場と家庭などの日常生活の場において、問題や課題を抱える子どもたちの生活を把握する。次に把握した生活問題が、学校で教育を受ける上で与える影響を考え、その問題を解決するために学校、家庭、教育委員会はもちろん、地域のフォーマル・インフォーマルな機関・組織等との連携方法を学ぶ。次に、人的・物的・制度的・情報等の社会資源の活用方法を習得する。子どもの発達権や学習権の保障を主眼に置いた支援ができるようになることを目指す。	
こども音楽療育論	音楽療育の意義と援助方法を学び、療育的な音楽活動の中で、障がいのある子どもの発達能力を出来るだけ有効に育て、自立に向かって育成するために、音楽の持つ様々な動きをどのように活用していくべきか、基礎・専門知識を学習する。子どもの心身の発達及び音楽面の発達、音楽が持つ医学的・臨床心理学的な働き、音楽療育のプログラム内容、セッションにおける技法等、音楽療育の基本を学ぶ。		
専門教育科目	教職発展科目		
	特別支援 保育発展科目		

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 教職・保育キャリア科目 教職基礎科目	教育の思想と原理	<p>教育は世代間の相互作用、学校・家庭・地域社会の間の相互作用として営まれている。その歴史はイニシエーションとしての教育から、学校教育制度の成立を経て、生涯学習の時代に至っている。このような歴史的変遷の中で、教育は何のために営まれ、学校は何のために存在してきたのか。本授業では、教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な背景を学びつつ、現代の教育課題に主体的に取り組むための姿勢を身につけることが期待される。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(57 大関 達也/8回) 教育をめぐる現代的課題、教育の語義、教育の目的・目標、学校の起源や学校の歴史的経緯、人間の教育必要性について学ぶ。</p> <p>(75 森 秀樹/7回) 子どもへの教育的まなざしの意味、課程教育の意味、近代公教育の理念と制度、学校化社会の課題、生涯学習の役割、情報・消費社会における教育と学校について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	教育史	<p>「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広く捉える。学生が日ごろ読んでいる本の中に教育史関係の題材があふれていることの確認を目指す。授業では、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1人あたり1冊以上選び(例は「参考図書」欄を参照)、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。</p>	
	教育哲学	<p>この授業では現代における教育の諸現象について教育哲学の観点から考察を行う。その過程で、教育の基本的概念、教育の歴史や思想について理解するとともに、子ども・教師・家庭・学校・社会といった教育の構成要素の間の相互関係について考えを深めていく。そして、それらの考え方に基づいて現代の教育の諸課題について考察を行い、各自が実践していくための出発点を準備する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(57 大関 達也/7回) 教育哲学の観点から現代における教育について考察するために、教育の基本的概念、教育の歴史や教育の思想、教育の構成要素(子ども、教師、家庭、学校、社会)とその相互関係について理解を深める。</p> <p>(75 森 秀樹/8回) 教育思想や教育理論の流れ、授業の本質的な構成要素などの振り返りを行いながら、教えることと学ぶことについて考察する。また、グローバル化などの現代の教育課題について理解を深め、対応策を検討する。</p>	オムニバス方式
	教職入門	<p>教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。</p>	
	教育制度論	<p>教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。</p>	
	教育社会学	<p>教育とは、人を望ましい方向へと変化させる営みである。一面では、教育は教育を行う者と教育を受ける者の間に起こる社会的相互作用である。他方、特定の社会のなかで、教育は一定の価値観に基づき法律や制度を介して行われる。すなわち、教育は社会的産物であり、社会現象としてさまざまな問題を生み出すものでもある。教育を社会学的に捉える視点を養い、教育現場の諸課題について考察していく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学部教育学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	教 職 基 礎 科 目	教育心理学	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、教育の実践や問題解決に活かす基礎的な知識を身につけることを目指す。各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。具体的には、教育心理学の用語や理論・方法論などの知識や、学習や記憶の仕組み、発達・学習・動機づけ・集団作り等を踏まえた学習指導と評価を考える力を身につける。	
		発達心理学	人間の生涯に渡る発達の過程を理解することを目的とする。受胎の瞬間から始まり死をもって終結する一個人の発達の流れを、複数の発達段階に区分し、それぞれの発達段階における身体的・社会的・心理的発達の特徴を理解する。発達障害に関する基礎を理解することも目的とする。	
		教育課程論	近年の教育改革では、特色ある学校づくりが求められるようになっていく。学校づくりの核となるのが、教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史の変遷を実践的視点からその諸理論を概観して、今日の教育改革や教育課程改革を理解し、そこに潜む問題や課題を把握し、新しい学校教育の展開と特色ある教育課程のあり方について学ぶ。	
	教 職 ・ 保 育 キ ャ リ ア 科 目	学校組織マネジメント	学校組織の活動を俯瞰的に捉えるために、「ヒト・モノ・カネ・情報」という視点を採用する。「ヒト＝教員」が組織の中でどのような役割を担って教育活動を行っているのか、それを「ヒト＝リーダー」がどのように支えているのか、組織の特徴や文化、組織活動の基盤となる「カネ＝資源」、そして学校組織内外に影響を及ぼす「情報」、それぞれについて互いに議論をしながら、理解を深め合うことを目的とする。	
		道徳教育論	道徳教育の意義と理論について、学校における具体的な取組を分析・検討することで理解を深める。また、道徳科の特質を踏まえながら、「考え、議論する道徳」を実現する授業づくりを進める。学習指導案の作成と模擬授業に重点を置き、①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な指導方法にチャレンジすることで、授業構想力と実践的指導力を身に付ける。	
		総合的な学習の理論と実践	総合的な学習の時間の意義や内容、カリキュラム、探究的な学習と横断的・総合的な学習展開について、学校の実践レベルでの具体的な事例の分析とそれに基づくディスカッション及びグループワークを通して考察する。また、年間指導計画、単元の内容と立案、指導・評価の進め方について具体的なイメージを形成し、総合的な学習の時間の実施に必要な知識や技能を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (7 林 敦司・11 安部 洋一郎／2回) 総合的な学習の時間の理論と指導法を振り返り、教育課程において果たす役割について再考する。 (7 林 敦司／7回) 「総合的な学習の時間」設置の目的と学習指導要領、目標と内容、学習指導の基本的な考え方、カリキュラムデザインについて学び、全体計画と年間指導計画を作成する。児童の学習状況と評価について具体的な方法を検討する。 (11 安部 洋一郎／6回) 単元計画の構想や内容についてグループワークで検討を行い、指導過程をデザインする。作成した学習指導案を用いて模擬授業を行い、探究的な学習の指導のあり方について検討する。	オムニバス方式 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学部教育学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	教職・保育キャリア科目	特別活動論	<p>学習指導要領における特別活動の目標や内容、教育課程上の位置づけと実践上の課題を踏まえ、これからの特別活動のあり方を探究する。また、特別活動で育てる資質・能力の重要な三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、教育課程全体において特別活動が果たすべき役割を考察し、目標を達成するための指導方法や企画力を、講義・グループワーク等を通して高める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 大江 実代子/6回)</p> <p>特別活動の目標と内容、育成する資質・能力の視点を理解し、特別活動がキャリア教育、生徒指導などの大きな要となることを理解する。また、児童会活動及びクラブ活動のデザイン、家庭・地域・関係機関と連携した特別活動などについて考察する。</p> <p>(7 林 敦司/7回)</p> <p>特別活動の変遷と教育課程の中の位置づけ、特別活動の基本的な性格や意義について考察する。特別活動と道徳教育について理解し、具体的な事例を基に、学習指導案を作成する。また、特別活動の学習評価について基本的な考え方、教室掲示を参考にした教室環境づくりの工夫を探る。</p> <p>(4 大江 実代子・7 林 敦司/2回)</p> <p>「社会に開かれた教育課程」や「汎用的な力の育成」をキーワードに、特別活動に期待される役割についてまとめる。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
		教育方法・技術論	<p>これからの社会を生きる子どもたちを育成するために、どのような授業をすれば上手く教えられるのか、どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのかを学習する。インストラクショナルデザインの考え方に基づいて、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT (情報通信技術) の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶとともに、学習指導案を実際に作成し、受講生間で評価することで、授業設計の一連のプロセスを学ぶ。</p>	
		教育におけるICT活用の理論と方法	<p>児童生徒1人1台端末による学習環境が整備され、ICT (情報通信技術) による個別最適な学びと協働的な学びが実現できるようになった。この科目は、主体的・対話的な深い学びの実現のためのICT活用指導力の養成を目指し、ICTを活用した学習活動の意義を理解し、学習場面に応じたICTを活用した授業の設計と準備、児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法、教師や学校を支援するツールとしてのICTの活用について学ぶ。また、各教科等のデジタル教材を作成する演習にも取り組む。</p>	
		生徒指導論	<p>生徒指導・進路指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践において求められる理論と技法の習得をめざす。いじめ・不登校・暴力行為・非行などの従来型の問題行動に加え、児童虐待・ネット犯罪・自殺等の深刻な児童生徒の問題行動の情勢を捉え、その原因・背景を理解し、生徒指導実践において必要とされる方法 (ガイダンス・カウンセリングなど) に関する理論と技法について学習する。また、進路指導・キャリア教育の目的・内容・方法についての基礎的理解を図るとともに、青少年の職業観・勤労観の形成、進路選択・職業選択等に関する課題をとりあげ、対応の具体的方向性について学習する。</p>	
		教育相談	<p>この授業では、教育相談が学校生活において児童生徒と接する教員にとっての不可欠な業務であり、学校における基盤的な機能であることを踏まえて、幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) について理解を深めることを目的とする。</p>	
教職実践科目	教職実践演習 (小学校)	<p>大学4年間の各授業の履修や教育実習等を通して身につけた、教員として必要な知識や技能等の習得について確認し、自己にとって何が課題であるのかを自覚することを目的とする。必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図るため、現場実践者の講話やグループ討議、事例研究等を取り入れた授業を展開する。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 教職実践科目 教職・保育キャリア科目	保育・教職実践演習	大学4年間の各授業科目の履修や保育所実習、幼稚園実習を通して身につけた、保育者として必要な知識や技能等の習得について確認し、自己にとって何が課題であるのかを自覚することを目的とする。必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図るため、現場実践者の講話やグループ討議、事例研究等を取り入れた授業を展開する。	
	幼稚園教育実習	幼稚園での教育実習を通して、幼稚園教諭の職務を体験することにより、保育者としての自覚を養い、基本的な教育方法及び技術を習得する。実習は、見学・観察・参加実習が主となるが、指導教員と教育活動を共にすることによって、教師としてのあり方を学び、幼児の特性を理解する能力を養うとともに、教師としての資質を身につける。準備として、実習に必要な手遊びやわらべうた等、教材研究を行う。実習記録をもとに事後指導を行い、実習での学びと課題が明確になるよう指導する。	
	小学校教育実習	小学校での教育実習を行い、学校現場での実践的な経験を積むことで、教員としての基礎的な資質・能力を向上させる。教職は、現場に配置された後に研修の期間が無く、すぐに教師としての活躍を求められる職業である。学校現場での貴重な経験を積み、多様な教員と出会う場面である教育実習において、多くの気づきを得ることが残りの大学生活における学びを深めることにつながる。各学生の前向きな実習の実施を求める。	
	特別支援教育実習	教育実習は、大学で学んだ知識・技術を教育実践の場で具体的に展開させうる能力を養うものである。特別支援学校教育実習に臨んで、子どもとのふれあいや、実習校の指導教員の指導を通して、障害のある子どもの理解を深めていく。特に、求められる知識・技能・態度を学習し、特別支援教育の指導者としての使命感を養う。	
	幼稚園教育実習リフレクション	自己の実習課題を整理して実習に取り組み、実習経験を通して保育者として有効に活かせるよう自己課題を見出すことを目的とする。これまで学習した関係科目の内容を総合的にまとめて理解するとともに、講義や実践を通して、子どもとかわる仕事としての保育者の役割について理解し、教育実習生として必要な意識や態度、保育実践に携わる素地を培う。	
	小学校教育実習リフレクション	小学校での教育実習に向けて、教育実習での体験を想定し、必要な準備を行うとともに、教育現場で求められる資質・能力を予め形成する。教育実習が一旦始まると、日々の業務に追われて、十分な学びを得られないままに実習期間が終了することになりかねない。各学生には、実習校との打ち合わせを通して十分な準備をして実習に臨んでもらいたい。また、それぞれの学生が教育実習で学ぶ事項は多岐に及び、各自が全く違う経験をすることになる。自らの学びを振り返るとともに、交流を行うことで学びを深めてもらいたい。	
	特別支援教育実習リフレクション	教育実習は、大学で学んだ知識・技術を教育実践の場で具体的に展開させうる能力を養うものである。特別支援学校教育実習に臨んで、子どもとのふれあいや、実習校の指導教員の指導を通して、障害のある子どもの理解を深めていく。特に、求められる知識・技能・態度を学習し、特別支援教育の指導者としての使命感を養う。	
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	保育所等での現場実習に向けて実習の意義と目的、実習の内容を学び、自らの実習課題を明確にする。子どもの最善の利益の考慮、守秘義務等について理解し、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に学ぶ。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。	
	保育実習Ⅰ（保育所）	実際に保育所保育の現場に参加し、観察や子どもとの関わりを通して乳幼児理解を深めるとともに保育士の職務や職業倫理について実践的に学ぶ。既習の教科目の内容を十分に踏まえ、子どもの保育及び保護者支援、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(教育学部教育学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門 教育 科目	教職・ 保育 キャリア 科目	保育 実習	保育実習指導Ⅰ（施設）	保育実習の意義・目的を理解し、児童福祉施設での実習を円滑に行うために、授業等で修得した知識・技術を再確認する。実習前には実習課題を設定し、実習目的を明らかにする。実習後は、実習の振り返りを行い今後の課題を認識する。 視聴覚教材等ICTを活用した授業を展開する。	共同
			保育実習Ⅰ（施設）	保育所・幼保連携型認定こども園以外の児童福祉施設において、10日以上80時間以上の実習を行う。施設での実習において子どもや利用者の理解を深め、保育士や施設職員の業務内容について体験を通して学ぶ。さらに、施設での生活や対人援助について見学観察を行い、施設の機能と役割についても知識を深める。	共同
			保育実習指導Ⅱ	保育の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学び、実践力の向上を目指す。保育士の専門性と職業倫理について理解を深める。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	
			保育実習Ⅱ	実際に保育所保育の現場に参加し、子どもの保育および子育て支援について総合的に理解する。保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深めるとともに、実習における自己の課題を明確化する。	
			保育実習指導Ⅲ	社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ（施設）」での実習体験を活かし、児童福祉施設での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深める。また、家族を含めた家庭支援のための知識や技術・判断力を養う。 視聴覚教材等ICTを活用した授業を展開する。	共同
			保育実習Ⅲ	本科目は、「保育実習Ⅰ（施設）」で習得した知識や技術を踏まえ、保育所・幼保連携型認定こども園以外の児童福祉施設で行う実習である。既習の実習や教科の内容とその関連性を理解し、実践力を養うことを目的としている。また、子ども・利用者を取り巻く環境や施設が有する多様な機能と役割についての学びを深める。関係機関や職員間の連携等も含め、より幅広い知識と理解を得ることを目指す。さらに、各実習生の個別の実習目標に沿った実習を展開し、各々がもつ資質や課題を明確にする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 支 援 教 育 専 門 科 目	特別支援教育総論	<p>様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(5 橋本 正巳/3回)</p> <p>知的障害児、肢体不自由児、病弱児の心身の発達、心理的特性及び学習の課程について理解する。特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を学ぶ。</p> <p>(17 杉田 律子/5回)</p> <p>インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF、合理的配慮、特別支援教育の制度や歴史の変遷について学ぶ。視覚障害と聴覚障害のある子どもの心身の発達、心理的特性及び学習過程を理解し、教育課程や支援の方法を理解する。また、母国語や貧困等の問題等により特別の教育ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を知り、組織的な対応のあり方について考察する。</p> <p>(19 平田 真二/3回)</p> <p>知的障害児、病弱児、発達障害児の教育課程や支援の方法について理解する。</p> <p>(20 藤野 正和/4回)</p> <p>特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性、保護者に対する支援と教育相談、心理的アプローチについて理解する。また、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難の把握と支援について考察する。</p>	オムニバス方式
	知的障害児の心理・生理・病理	<p>本授業では、知的障害に関する基本的な定義・概念を理解するとともに、その障害における心理的・生理的・病理的な基本的知識に関する理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 藤野 正和/8回)</p> <p>知的障害児の定義とICFとの関連、知的障害児の知覚・学習・言語・概念や、記憶・注意・動機づけ・問題解決、コミュニケーションや対人関係について理解する。これらを理解した上で、知的障害児の実用的な適用機能、心理・教育的支援について理解を深める。</p> <p>(78 足立 昌夫/7回)</p> <p>脳の基本的な構造と機能(知的能力に関する領域)、知的障害の遺伝要因、先天的な成因、周産期の成因、乳幼児期の成因について理解する。これらを理解した上で、知的障害児の医療・福祉における治療や支援について理解を深める。</p>	オムニバス方式
	肢体不自由児の心理・生理・病理	<p>本授業では、肢体不自由に関する基本的な定義・概念を理解するとともに、その障害における心理的・生理的・病理的な基本的知識に関する理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 藤野 正和/9回)</p> <p>肢体不自由児の定義とICFとの関連、姿勢・運動発達、発達検査、運動・動作の特性、知覚・知能の特性、社会性・コミュニケーションの特性について理解する。これらを理解した上で肢体不自由児への心理的支援・配慮について理解を深める。</p> <p>(78 足立 昌夫/6回)</p> <p>脳の基本的な構造と機能、知的障害の生理・病理(脊髄・脊椎疾患、骨関節疾患、筋原性疾患など)、てんかん発作の関連性について理解する。これらを理解した上で、重度重複障害児における医療的ケアの重要性について理解を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学部教育学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	特別支援教育専門科目	病弱児の心理・生理・病理	<p>本授業では、病弱・身体虚弱に関する基本的な定義・概念を理解するとともに、その障害における心理的・生理的・病理的な基本的知識に関する理解を深めることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 藤野 正和/8回) 病弱の意味、身体虚弱の意味を概観し、近年の患者のQOLを重視する医療の流れ、病気治療過程にある子どもにとっての自己効力感、自己コントロール、レジリエンス・バルネラビリティ、学習性無力感について理解する。これらを理解した上で、病弱・身体虚弱児の実態把握から心理・教育的な支援について理解を深める。</p> <p>(81 高野 美由紀/7回) 白血病、脳腫瘍、筋ジストロフィー、気管支喘息、アレルギー疾患、腎臓病、心身症、うつ病の病態やその治療法を学び、治療中の子どもを支えるための学校の役割について理解を深める。</p>	オムニバス方式
		知的障害児の教育課程と指導法	知的特別支援学校や知的特別支援学級の教育課程を理解し、教科別の指導、各教科を合わせた指導、自立活動等の教材研究、指導案作成、授業の進め方のポイントについて学ぶ。授業では、グループワークを中心とした演習形式を通して、実際に教材作成や模擬授業を考えることで、学校現場での指導に役立つ力を培う。	
		肢体不自由児の教育課程と指導法	<p>肢体不自由児の指導について、教育課程を理解し、自立活動の指導を中心に、①トップダウン、ボトムアップの観点、②自立活動の相互関連性、③自立活動の指導における配慮事項を踏まえ、個別の指導計画、個別の支援計画の作成を通して、PDCAサイクルの実践体系として学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 橋本 正巳/8回) 肢体不自由教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の編成を学び、自立の定義、自立活動の6つの内容の相互的理解、肢体不自由児の運動・動作機能を中心とした基本的指導技法、感覚・知覚・認知機能を中心とした指導理論、摂食指導の理論について理解し、その実際について考察する。</p> <p>(19 平田 真二/7回) 肢体不自由児の教科指導における姿勢および認知特性、医療的ケアについて学び、個別の指導計画、教育支援計画を作成し、その活用と実際について考察する。また、肢体不自由特別支援学校の地域におけるセンター的役割の基幹を担う巡回相談を通じたコンサルテーションの実際について学ぶ。</p>	オムニバス方式
		病弱児の教育課程と指導法	病弱教育の対象となる子どもの個別の実態に応じた具体的な教育的支援のあり方について学ぶ。そのうえで、適切な個別の指導計画を立案・作成することができるように、模擬事例について具体的な支援を検討し、グループで発表する。異なる状態像の子どもに対する教育的支援のあり方を通して病弱教育の対象となる子どもについて幅広く学ぶ。	
		知的障害教育総論	本科目は、特別支援教育対象として主要障害区分である知的障害者に関して、特別支援教育力の向上をねらいとしている。講義内容は、知的障害定義、発達傾向、心理・行動傾向と困難特性、他障害との重複障害状態などを含み、障害の困難に対応する教育支援実践のための、教育課程、指導形態、職業・進路指導などに言及する。	
		肢体不自由教育総論	通園施設・特別支援学校等において、障害の重度・重複化、多様化が顕著となっており、一人ひとりの実態に即した、個別の指導上の創意工夫が重要となる。本科目では、特別支援教育の観点から、肢体不自由とICFの関係を理解し、肢体不自由児の実態、教育課程、指導方法・内容、自立活動等を、一般的に理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 支援 教育 専門 科目	病弱教育総論	医療の発達に伴い、多様化している病弱教育の対象となる子どもの教育的ニーズに応じた教育的支援のあり方について、具体例を挙げながら解説する。また、病弱教育の歴史、制度について解説する。講義を聞くことに留まらず、児童生徒の実態を踏まえた指導上の工夫を考えるようなワークを取り入れて行う。	
	視覚障害教育総論	視覚障害の概念と実態について理解し、視覚障害児を対象とした教育課程の特徴、視覚障害の原因、評価方法、視覚障害児の知覚・認知・運動における心理学的、生理学的特徴を理解し、視覚障害児の発達段階に応じた個別の指導計画等について学ぶ。また、視覚障害児の特別支援教育において必要な点字やその他の情報獲得方法についても理解を深める。	
	聴覚障害教育総論	聴覚障害の概念と実態、聴覚障害の診断・状態把握、障害特性について理解し、聴覚障害児を対象とした教育課程の特徴、評価方法、聴覚障害児の知覚・認知・運動における心理学的、生理学的特徴を理解し、聴覚障害児の発達段階に応じた個別の指導計画等について学ぶ。	
	重複・発達障害教育総論	重複障害および発達障害の概念と重度・重複障害の実態、障害の診断・状態把握、障害特性について理解し、教育課程、個別の指導計画等について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (5 橋本 正巳／5回) 重度・重複障害及び発達障害の概念を理解し、教育課程の基本的考え方と編成について学ぶ。また、感覚・運動機能の特性から支援方法について検討し、事例を通して個別の指導計画について理解を深める。 (17 杉田 律子／5回) 重度・重複障害児の生理・病理、発達障害の生理・病理を学び、認知・コミュニケーションの特性などから必要な支援について検討し、発達障害児の個別の指導計画について理解を深める。 (19 平田 真二／3回) 重度・重複障害児の医療的ケアの概要と意義、自閉症スペクトラムの概要、ADHDの概要について学び、必要な支援方法について理解を深める。 (20 藤野 正和／2回) 重度・重複障害児の心理、発達障害の概念及び生理・病理を学び、発達障害教育の教育課程の基本的考え方と教育課程の編成について理解する。	オムニバス方式
	心理検査法	心理検査のうち特に障害児のアセスメントに用いられる発達検査や知能検査・投影法的検査の演習を通して、子どものアセスメントの意義を理解し、子どもの教育計画に活用する力を身につけることを目標とする。具体的には、教育実践における子ども理解の意義とアセスメントの意義を学び、心理検査の概要と進め方、心理検査の妥当性と信頼性を理解し、演習を進める。	共同